Architecture / Design / Education / International Exchange

NICHE

工学院大学建築学部同窓会誌

http://niche-alumni.com

ダイジェスト

2016 vol.39

since 1969

祝 工学院大学 おめでとうございます!

27年度1級建築士
学校別合格者数ランキング6位

結 努力を結果に結びつける

日建学院

2015年度 1級建築士設計製図試験 合格実績

合格率
当学院修了生 1,866人中
合格者 1,145人

61.3%

当学院修了生以外の受験生合格率 35.3%
当学院修了生以外の受験生7,442人中／合格者2,629人

その差 ズバリ! 26%

★ 今の試験にズバリ対応! ★

上記合格率には、通信講座・WEB講座及び模擬試験のみの受講生は一切含まれておりません。

※**修了生**…1級建築士設計製図の通学コースの受講者で終模擬試験（特訓模擬試験）を受験し、採点規定による**欠格要件**※に該当しなかった方です。
※欠格要件…当学院の採点規定において、「ランクⅣ:設計条件・要求図面等に対する重大な不適合に該当するもの」としています。
（例:未完成、指定構造以外、主要な要求室・設備の欠落）

資料請求 問い合わせ
日建学院コールセンター フリーコール 0120-243-229
株式会社建築資料研究社／日建学院　東京都豊島区池袋2-50-1　受付／AM10:00~PM5:00（土・日・祝日は除きます）

『電子認証インターネット確認申請』

日本初 第一号物件を 交付しました!!

全ての申請をインターネットから受付可能です

日本全国どこの物件も各営業所からご申請できます

建築確認／住宅性能評価／[フラット35]適合証明
住宅瑕疵担保責任保険検査／長期優良住宅／低炭素住宅／住宅性能証明書／建築物省エネルギー性能評価[BELS]

□東北地区出張所　：宮城県仙台市　☎:022-292-3051
□北関東地区出張所：栃木県宇都宮市　☎:028-610-7140
□中関東地区出張所：埼玉県さいたま市　☎:048-661-7711
□東関東地区出張所：千葉県松戸市　☎:047-704-6151
□西関東地区出張所：東京都町田市　☎:042-709-0420
□関西地区出張所　：大阪府大阪市　☎:06-6885-3670
□山陰地区出張所　：島根県出雲市　☎:0853-62-5931
□中九州地区出張所：福岡県久留米市　☎:0942-36-6580
□西九州地区出張所：長崎県佐世保市　☎:0956-42-5401
□東九州地区出張所：宮崎県宮崎市　☎:0985-35-5547
□南九州地区出張所：鹿児島県鹿児島市　☎:099-208-2400

■本社：東京都新宿区新宿1-7-1 新宿171ビル3階 ☎:03-5367-8730（代表） 東京メトロ丸の内線 新宿御苑前駅 3番出口隣接

一級建築士を求めています!!
- 20代－40代前半の方。審査の経験がなくてもOKです。設計経験者優遇
- 工学院大学卒業生の在籍者数：40名

☎03-3225-3800（管理部　総務担当）までご連絡ください。

株式会社 住宅性能評価センター　住宅性能評価センター　検索
国土交通大臣 指定確認検査機関／国土交通大臣 登録住宅性能評価機関／住宅金融支援機構 協定指定機関／住宅瑕疵担保責任保険検査機関／国土交通大臣 登録建築物調査機関

建築学部同窓会は、現役学生の為の支援講座を開催しています。

卒業年の合格を目指す 2級建築士
工学院大学 アカデミックコース

建築士の基礎から実務まで、確実に実力を積み上げ、合格へ導いてくれる学習です。

卒業年に一発合格を

step 1 一年生対象 インターネットによる自宅学習

1学年：準備講座 Web

建築のための数学
建築に必要な数学の知識取得を目的に学習（集合又はWeb）を行います。
■構造で使う数学（力のモーメント）
■法規で使う数学（天井高）など

構造 ①
建築に必要な力学について学習します。
■反力とは
■静定ラーメンなど

学習時間の目安
■期間　6月から3月
■回数　11回（90分）
■目安　2週間に1回（2時間）の学習
■同窓会特別支援価格：4,000円

step 2 二年生対象 インターネットによる自宅学習

2学年：基本講座 Web

構造 ②
建築構造の概要から建築材料までの内容を学習します。
■応力とは
■建築材料
木材・金属・コンクリートなど

法規
建築基準法の概要から建築制限などを学習します。
■建築士法と業法
■容積・高さ制限など

学習時間の目安
■期間　6月から3月
■回数　24回（90分）
■目安　1週間に1回（2時間）の学習
■同窓会特別支援価格：5,000円

step 3 三年生対象 インターネットによる自宅学習

3学年：実務講座（プレアカデミック） Web

計画
建築計画の各論から、建築設備などを学習します。
■住宅・集合住宅
■消火・防災設備など

施工
施工準備から、仕上げ工事までの内容を学習します。
■施工計画
■内装・断熱工事など

学習時間の目安
■期間　10月から3月
■回数　36回（90分）
■目安　1週間に1回（2時間）の学習
■同窓会特別支援価格：10,000円

step 4 四年生対象 インターネットによる自宅学習と、卒論・設計提出前の10・11月に集中講義、及び卒業後の全国にある170校への通学講座（210,000円（税別））が含まれます。

4学年：2級問題解説講座（アカデミック） 通学

受験準備力学
建築に必要な力学の断面の性質と応力についての基礎を学習します。
■断面の性質と応力
■静定トラスなど

受験準備法規
建築基準法の構成や用語から、基礎的な内容を学習します。
■基準法のしくみ
■高さ制限など

学習時間の目安
■期間　10月から3月
■回数　14回（90分）
■目安　1週間に2回（2時間）の学習

2級問題解説講座
4科目の総まとめと本試験と同様の模擬試験を行います。
■各科目のまとめ
■模擬試験と全国統一模擬試験など
卒業した後の通い講義も含まれます。

3月から最寄りの日建学院へ
※通学で弱点補強を行い、合格へと導きます。
■同窓会特別支援価格：36,000円
（Web 講座＋大学における講義＋卒業後の通学講座を含む）

※講座内容は予告なく変更する場合が有りますのでご了承ください。

講座に関するお問合せ 日建学院コールセンター 0120-243-229 株式会社建築資料研究社　東京都豊島区池袋2-50-1
同窓会に関するお問合せ 工学院大学建築学部 鈴木研究室　Tel.03-3342-1211（代）

27年度 1級建築士合格学校別ランキング6位 <全国建築系学校約220校中>

学部卒業年度に2級建築士になることは1級建築士合格に断然有利!

この講座は、工学院大学の授業進行に合わせて、**建築に必要な「建築のための数学」や「力学の基礎」から、毎年<1年生から受講可>、少しずつ知識を習得できるよう無理のない学習プログラムになっています。**この講座を受講して、卒業年に2級建築士学科試験の一発合格を目指しましょう。
これが最も早く、1級建築士合格につながることとなります。

諸先輩方につづけ!!

過去、この講座を受講して**2級建築士に合格（受験合格率66%）した先輩方のうち、1級建築士合格者の平均合格率は60%**
<参考:27年度最終合格率12.4%>です。

申し込みは、同窓会ホームページ（http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku/）にて必要手続きが簡単にできます。

〈主催〉工学院大学 建築学部 同窓会

インテリア コーディネーター講座

未来のために「今」できることを考える!

皆さんは、日々知識の習得に励み、アルバイトや仲間との交流を通じて、「今」しかできない、貴重な経験を重ねていることと思います。
学生時代は、そうした貴重な経験や体験ができる場であると同時に、近い将来、自分が進む路を方向づける場でもあります。
インテリアコーディネーターは、建築・不動産業界での仕事に活きる資格であるだけでなく、資格にチャレンジする過程で得る知識は、実務に就いた時に必ずや皆さんの助けとなるでしょう。また、就活に於いて有利な立場に立てることは言うまでもありません。
自分自身の未来のために、学生である「今」できることにチャレンジしませんか。

講座風景

①就活に役立つ!

皆さんの人間性や個性を面接だけで企業側に伝えることはなかなか難しいですよね。目指す企業に就職するために、企業研究やOB訪問をし、面接準備を進めるのが一般的な就活対策ですが、その他にも自身の能力や強みを分かりやすく企業側に伝えることができるのが「資格」です。「資格」はそれ自体が価値のあるものですが、就活において資格は「目標に向けて努力をし、結果を出した人物」として評価されます。「住」に関する多くの業界で活かせる資格です。

②知識が生涯の財産に!

建築・住宅・インテリア関連の仕事に従事している方でも、インテリアを基礎からしっかり学んだという方は意外に多くありません。受験対策を通じて得る知識は、必ず実務で役に立ちます。しっかりした知識・教養に裏打ちされたスキルは、生涯を通じて皆さんの大きな財産となります。比較的時間に余裕のある「今」こそチャレンジに最適なタイミングです。

より受講しやすく、より理解しやすい講座へリニューアル！

	日程		学習内容
1	6月 5日	日	オリエンテーション／【第3章】インテリアの歴史／【第4章】インテリアコーディネーションの計画①
2	6月12日	日	【第4章】インテリアコーディネーションの計画②③
3	6月19日	日	【第6章】インテリアの構造・構法と仕上げ①②
4	6月26日	日	【第6章】インテリアの構造・構法と仕上げ③④
5	8月 4日	木	【第7章】環境と設備①②
6	8月25日	木	【第7章】環境と設備③④
7	8月28日	日	模擬試験1
8	9月 4日	日	【第5章】インテリアエレメント・関連エレメント①②③
9	9月18日	日	【第2章】インテリアコーディネーターの仕事／【第8章】インテリアコーディネーションと表現技法
			【第9章】インテリア関連の法規・規格・制度
9	9月25日	日	模擬試験2
10	10月2日	日	答練講義1／答練講義2
10月9日（日）　インテリアコーディネーター1次試験（予定）			

受講料・連続受講割引

※講座日程およびカリキュラムについては、変更を行う場合があります。

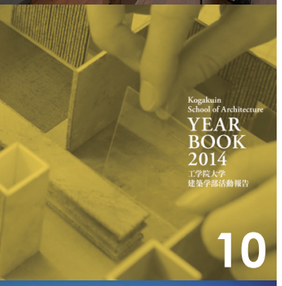
- **試験前の準備期間が2ヶ月から4ヶ月へ**
  合格に必要な実力が段階的に身に付く、ゆとりのあるスケジュールに改良。早期から学習を始めることで、予習と復習に十分な時間が取れるため、試験対策以外にも、大学の講義や将来の実務で役立つ知識まで、より密度の濃い学習が可能となります。
- **学内スケジュールに配慮した講座日程**
  より多くの学生にスキルアップをして欲しいとの願いから、できるだけ通いやすい講座日程に調整を行い、ました。

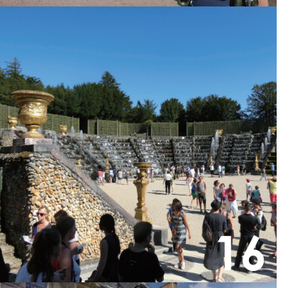
■開講:6/5(日)
■場所:工学院大学 新宿キャンパス

お申し込みは、同窓会ホームページ（http://niche-alumni.com/）にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築学部 同窓会

NICHE 2016 vol.39 ダイジェスト 目次





6 同窓会より

- 巻頭言 6
- NICHE Topics 8
- 新刊書紹介 10

12 特集　フランス建築探訪！

- 特集 1 中島智章と巡るヴェルサイユ宮殿 — 中島 智章 12
- 特集 2 第一回文部省フランス留学生、古市公威 — 香川 浩 18
- 特集 3 ジャン・プルーヴェ再考 — 鈴木 敏彦 26

34 NICHE PASSPORT

- ロンドンの建築事情 — 小向 叶恋 36
- 環境先進国ドイツの建築を求めて — 米山 嘉貴 38
- 「残す」にこだわるポーランド — 高橋 朋子 40
- 人の活動のリアルを注視するベトナム・タイ — 加藤 光貴 42
- 建築の原点「強」「用」「美」 — 朱 健靚 44
- 新陳代謝するNY — 鈴木 翼 46

48 NICHE LETTER

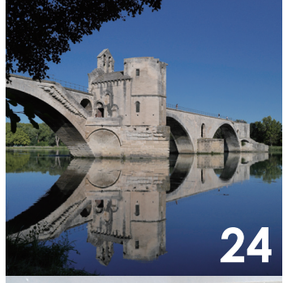
- 木製眼鏡職人 — 神田 武蔵 48

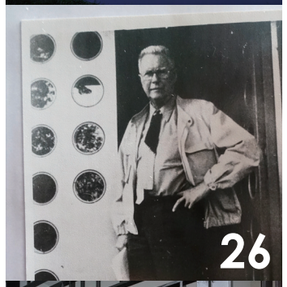
50 NICHE INTERVIEW

- 武藤章先生のご家族に聞く 50

NICHE mookとダイジェスト

2014年より、工学院大学建築学部同窓会誌NICHEは２冊に分かれました。一つは海外取材に基づく特集記事と連載を中心としたムック本、「NICHE mook」です。建築とデザインの学際的な架け橋として、同窓会費や寄付金をお支払頂いた方にお送りするほか、アマゾンや工学院大学生協で販売しています。もう一つは広報誌「NICHEダイジェスト」です。ムックから抜粋した内容と本学に特化した記事を掲載し、同窓生や本学関係者に無料で配布します。





NICHE mook 03

６月１日発売予定

いよいよ全国配本開始！

（内容、発売日は変更になる場合があります）

特集　フランス建築探訪！
中島智章と巡る、ヴェルサイユ宮殿
第一回文部省フランス留学生、古市公威
ジャン・プルーヴェ再考
2016年６月１日第１刷発行
248ページ永久保存版
特集163ページ、日仏バイリンガル
定価：本体1,800円＋税

特集：フランス建築探訪！

特集 1 中島智章と巡る、ヴェルサイユ宮殿

ヴェルサイユ宮殿を知るための七つの鍵
❶ルイ14世の生涯
❷失われた大階段
❸マスクの要石の意味
❹ヴェルサイユの宮廷庭師
❺ヴェルサイユの水はどこからきたのか
❻鏡の間
❼ルイ15世の時代
＜コラム＞ヴェルサイユ宮殿を題材にした映画の数々

特集 2 第一回文部省フランス留学生、古市公威

パリ留学時代 1875 - 1880
古市公威の３冊の旅行記
南フランス視察旅行記 1888 - 89
遊歩者・古市公威の見たパリ世紀末（パリ留学時代 1875 - 1880）
古市・瀬川邸訪問記
＜コラム＞フランスにおける航空技術の萌芽

特集 3 ジャン・プルーヴェ再考

家系図
ブルーヴェと同時代の仲間達
Mallet Stevens × Jean Prouvé
Charlotte Perriand × Jean Prouvé
Le Corbusier × Jean Prouvé
Pierre Jeanneret × Jean Prouvé
作品マップ（パリ）
作品マップ（ナンシー）
インタビュー：Catherine Drouin-Prouvé に聞くジャン・ブルーヴェ
インタビュー：Mrs GAUTHIER に聞くジャン・ブルーヴェ
＜コラム＞パリの２つのジャン・ブルーヴェ作品のギャラリー

特別企画 1 マルセイユのユニテ・ダビタシオン大解剖

実測／マルセイユのユニテ・ダビタシオン大解剖
＜コラム＞ユニテのレストラン

※赤字を本誌ダイジェスト版に記載

特別企画 2 アントニン＆ノエミ・レーモンドのトータルデザイン - 2

はじめに　旧井上房一郎邸に受け継がれたアントニン＆ノエミ・レーモンドのトータルデザイン
レーモンド自邸（麻布笄町の家 1951）との比較
旧井上房一郎邸のトータルデザインの全貌
建築・外構・庭
インテリア・家具
ノエミの家具とプロダクト
ノエミのテキスタイル・手すき和紙・い草編み
大工、植原清氏に聞く
おわりに

連載企画 近代建築を支えた建築家の系譜

輝かしき先輩たち⑰　建築業界に全身全霊を捧げた、内山熊八郎
満州、日本、台湾に活躍した八板志賀助を事例として

巻頭言

特集１：中島知章と巡る、ヴェルサイユ宮殿
「ラトーヌの泉水」。ル・ノートルによる庭園の中央軸線上に位置する２つの泉水の１つ。もう１つは「アポロンの戦車の泉水」

特集２：第一回文部省フランス留学生、古市公威
古市が1888年に視察したマルモールの吊り橋。現在は使用されてはいないが完全に保存されていた

特集３：ジャン・プルーヴェ再考
ゴーチエ邸の外観。左手に見えるのがジャン・プルーヴェの長女フランソワーズ

2016年３月、今年も街中の桜が咲く季節がやって来た。この春に工学院大学建築学部を卒業する諸君は、どんな決意を胸に新宿キャンパスを離れるのだろうか。そして、かつてこの大学で学んだ卒業生は、どのように本学を思い出すのだろうか。この学び舎で過ごした日々を糧に、大きく世界にはばたくことを祈っている。同窓会は社会にはばたく諸君のための止まり木である。同窓会の最新動向はNICHEのホームページから発信している。（http://niche-alumni.com）

海外への好奇心と、学びを還元する力

NICHE出版会では2014年から「大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する」という理念を掲げ、大学関係に配布するダイジェスト版と、書籍として流通させるムック版を編集している。前者では同窓生の仕事ぶりや、海外渡航奨励金制度を用いて海外を巡った在学生のレポートを載せ、後者では毎回異なる国をテーマに掲げ、海外の建築探訪を通じてその国の建築と歴史を掘り下げる特集を組む。世界は目まぐるしく動いているが、建築とデザインと教育事情には常に通底するものがある。それは海外に対する飽くなき好奇心と、見聞きしたものを還元しようとする力である。本学を創設した渡邉洪基はイタリアに働き、東京駅を造った辰野金吾はイギリスに学んだ時期があった。そして今年のテーマはフランス。本学アトリウムで渡辺洪基の胸像に並ぶ古市公威は、1875年に初の文部省フランス留学生としてパリに学んだ。やがて古市はその成果を日本に持ち帰り、1887年に工手学校の設立に参画する。

特集１　中島智章と巡る、ヴェルサイユ宮殿

今回のテーマ国がフランスだけに、「ヴェルサイユ先生」の登場を願った。本学准教授の中島先生はヴェルサイユ宮殿をこよなく愛し、関連書籍を数多く出版しているヴェルサイユ宮殿の大家である。そもそも研究のきっかけは、中学３年生の時にバロック音楽にはまったことだと言う。東京大学に入学し、建築学科の３年生として初めて本格的なエスキースを受けた際に、担当の長澤泰先生に好きな建築を聞かれた。「ヴェルサイユ宮殿」と答えた後に、改めて自分の興味に気が付いたという。卒業設計では宮廷社会の建築計画を研究するだけには飽き足らず、代々木公園にヴェルサイユ宮殿を構想したという。そんな筋金入りの研究者である中島先生にヴェルサイユ宮殿を案内してもらった。ルイ14世の没後300年にあたる2015年、この世界遺産を深く知る鍵となる７つの話題を伝授してもらった。

特集２　第一回文部省フランス留学生、古市公威

東京大学工学・情報理工学図書館の「古市公威文庫」では、古市がフランス語で記した３冊の旅行記を所蔵している。最初の２冊は1879年にエコール・サントラルを卒業してパリ大学に入学するまでの夏休みに、イギリスとオランダで河川を調査して記したものだ。この内容は『にほんのかわ』30、31、33、35（日本河川開発調査会）に「古市公威の見学旅行記１～４」として井口昌平が日本語に翻訳している。この中で３冊目の存在に言及しているが、未だ訳が出ていない。今回、本図書館にて原書を発見した事が本特集の決め手となった。この３冊目は古市が1888年から1889年にかけて、当時の内務大臣山県有朋のヨーロッパ巡行に同行した折に記したものだ。几帳面なフランス語の記述とスケッチからは、南フランスとイタリアの河川や港湾施設、鉄道の状況をつぶさに視察した様子が見てとれる。南仏部分の全文を中島智章先生が翻訳してくれた。そこでNICHE編集部はフランスに飛び、古市の視察ルートを追体験した。

特集３　ジャン・プルーヴェ再考

フランスといえばジャン・プルーヴェだ。これは編集長の独断と偏見と言われても仕方が無いが、プルーヴェはプロダクトから建築までトータルデザインを手がけた先駆者である。パリではプルーヴェの権利を管理する末娘カトリーヌに４年越しのロングインタビューを実施した。またナンシーでは、今やNICHE恒例となったお墓参りを敢行し、ジャン・プルーヴェの墓に手を合わせた。そのお陰か、プルーヴェの長女フランソワーズの家に思いがけず招待された。なんとあのプルーヴェの傑作として名高いゴーチエ邸である。本特集では、ジャン・プルーヴェと深く交流したル・コルビュジェとピエール・ジャンヌレ、そして彼らとの接点を生み出したマレ＝ステヴァンス、さらには、後に著作権で係争関係になるが、当時は多くの家具デザインを協働したシャルロット・ペリアンにフォーカスした。彼ら同時代の仲間達との協働でジャン・プルーヴェが成し得たことを探る。

大学という学び舎は知的資源の宝庫である。そして言語と国境を越えた人的ネットワークこそ、未来への力を育む。大学で切磋琢磨した仲間たちと共に手を携え、新しい未来を切り拓いていこうではないか。

2016年２月　東京にて
「NICHE mook」編集長
建築学科同窓会会長　鈴木敏彦

鈴木 敏彦　Toshihiko Suzuki

建築家・デザイナー

1958 年東京生まれ。工学院大学建築学科修士課程修了。黒川紀章建築都市設計事務所、フランス新都市開発公社 EPAmarne、早稲田大学建築学専攻博士課程を経て、1999-2007 年東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科助教授、2007-2010 年首都大学東京システムデザイン学部准教授、2010-2011 年工学院大学工学部建築都市デザイン学科教授。2011 年より工学院大学建築学部建築学科教授。

北欧建築・デザイン協会理事。日本インテリア学会理事。

グッドデザイン賞／中小企業庁長官賞、アジアデザイン大賞／グランプリ、レクサスデザインアワード 2013、iF デザインアワード 2014 他受賞多数。

著書に『世界で一番美しい建築デザインの教科書』（エクスナレッジ）、『北欧の巨匠に学ぶ図法 家具・インテリア・建築のデザイン基礎』（彰国社）、『北欧の巨匠に学ぶデザイン アスプルンド / アールト / ヤコブセン』（彰国社）、『建築プロダクトデザイン／暮らしを劇的に変えるモノと空間の設計思想』（講談社）、『ヤコブセンの建築とデザイン』（TOTO 出版）、『プロセスでわかる 住宅の設計・施工』（彰国社）などがある。

同窓会より

NICHE Topics

2015年度の話題

1 2015年 日本建築学会賞

2015年日本建築学会賞(作品)
木の構築　工学院大学弓道場・ボクシング場
福島加津也(福島加津也＋冨永祥子建築設計事務所代表)
冨永祥子(福島加津也＋冨永祥子建築設計事務所)
(撮影：小川重雄)

2015年日本建築学会著作賞
いえ 団地 まち－公団住宅 設計計画史
木下庸子
(設計組織ADH代表、工学院大学教授)
植田実
(住まいの図書館出版局編集長)

NICHE 2015 vol.38で紹介

2015年日本建築学会賞(業績)
伝統的建物の再生と新たな価値の創造－千葉県香取市佐原 町並み再生プロジェクト
郡裕美(スタジオ宙一級建築士事務所代表)
遠藤敏也(同事務所代表、1984年卒)

15棟の住宅と建造物の再生を17年間にわたり手がけたことが評価された。軒下空間や中庭の再生によって、伝統的な町並みを現代に継承している。

2 平成27年度日事連建築賞国土交通大臣賞 第56回BCS賞

建築士事務所：(株)小堀哲夫建築設計事務所
（環境・設備設計：持田正憲、1996年卒）
施工者：大成建設株式会社
作品名：ROKI Global Innovation Center -ROGIC-
静岡県浜松市にある濾過器メーカーの開発センター。ガラスの大屋根で覆われた空間は豊かな自然が感じられる。温度、湿度、放射、気流、着衣量、人体代謝量を考慮した温熱評価や、床輻射と床吹出による居住域空調など、 意匠と構造と設備に配慮した施設である。

NICHE mook 01で紹介

撮影：新良太

3 橋爪毅氏 黄綬褒章受賞

平成27年秋の褒章で橋爪毅氏(1949年、生産機械工学科卒)が黄綬褒章の栄誉を受けられた。工学院大学を卒業後、能美防災株式会社に入社し、防災のパイオニアとして活躍した。建築とは切っても切れない火災報知機や消火設備をはじめとする各種防災設備システムを開発し、能美防災株式会社の会長として社会の安全に貢献し、業界の発展に大きく寄与したことが評価された。

日本国天皇は橋爪毅に
多年消防機器製造販売業に従事し
勲業の発展に尽力したことについて
黄綬褒章を授与する
内閣総理大臣 安倍晋三
内閣府賞勲局長 倉田徳之

4 一級建築士合格者 大学別ランキングで６位

国土交通省から、2015年度一級建築士試験「設計製図の試験」の合格者が発表された。本学出身の合格者は66人。学校別合格者では全国６位。昨年度の７位からランクアップした。

平成27年一級建築士合格者上位大学

1位	日本大学	225名	**6位**	**工学院大学**	**66名**
2位	東京理科大学	132名	7位	明治大学	54名
3位	早稲田大学	99名	8位	神戸大学	51名
4位	芝浦工業大学	78名	9位	京都大学	47名
5位	近畿大学	73名	10位	京都工芸繊維大学	46名

出典：財団法人建築技術教育普及センター
平成27年一級建築士試験「設計製図の試験」の学校別合格者数一覧

5 HONG KONG 2015 国際アジア切手展にて大金銀賞を受賞

第31回アジア国際切手展が2015年11月20～23日香港で開催され21カ国が参加した。224作品中、郵便史ナショナル部門で大場光博氏(1971年院卒)の「中国の開国1745～1897」が大金銀賞を受賞。ヴェルサイユの中国宛の手紙から清朝時代18～19世紀の初期外国郵便史までの研究成果が認められた。

1859年香港のペリー司令のアメリカ海軍旗艦 U.S.S. ポーハタン宛カバー

6 “キッチンで暮らす”施工事例コンテスト金賞

LIXIL主催の「”キッチンで暮らす”施工事例コンテスト」は、オンラインプラットフォーム「Houzz」にて応募と投票を実施した。PUDDLEの加藤匡毅氏（1995年卒）が発表したキッチンは、50年の歳月を経た梁と、施主が集めた調度品を収納したカウンターが印象的である。審査員からは「感じの良さ」「質感のセンスの良さ」「モノがそこにある洗練の美しさ」が秀逸だとして金賞を受賞した。

7 波多江健郎先生 10月25日にご永眠

工学院大学名誉教授、波多江健郎先生（享年93歳）は2015年10月25日に永眠された。家族葬が執り行われ、年が明けて1月11日の故人の誕生日に100名を超える卒業生が集い「偲ぶ会」を 工学院大学にて催した。先生への感謝を添えて皆様に報告する。

8 デンマーク皇太子夫妻、鈴木敏彦研究室のイグルー建設に参加

展覧会「スピリチュアル　グリーンランド」in 代官山ヒルサイドテラスF棟ヒルサイドカフェ前庭
2015年3月28日～4月19日

デンマーク王国のフレデリック皇太子殿下、メアリー皇太子妃と、グリーンランド自治政府のキム・キールセン首相が、鈴木敏彦先生と共にイグルーのブロックを積み上げた。氷の塊のかわりに、81個のプラスチックダンボールで制作した。イグルーの広さと明るさを体験できる空間として、期間中多くの来場者でにぎわった。(解析、モデリング：佐藤省三)

同窓会より

新刊書紹介

同窓生や建築学部の教員など関係者が
執筆した新刊書の一部を紹介する。

建築を保存する本01

工学院大学八王子図書館/武藤章
1979年12月竣工~2015年10月解体

NICHE編著

Opa Press
256ページ
2,700円＋税
2015年12月15日

2015年10月に解体された八王子図書館は、1979年に工学院大学八王子キャンパスのへそとして武藤章先生（1931-1985）が設計した、光に満ちた気持ちの良い空間であった。建築学部同窓会では解体を阻止できない現実を直視し、建物の書籍化を実施した。実施設計図の意匠図一式108枚を収録したので再建も夢ではない。本誌50～53ページに武藤先生のご家族のインタビューを転載している。

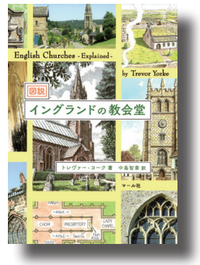
世界で一番美しい天井装飾

中島智章(監修)（工学院大学准教授）

エクスナレッジ
140ページ
1,800円＋税
2015年5月30日

屋根や上階の床を隠すのに、なぜ豪華な絵画やモザイクが必要なのか。ましてやヴォールトは構造的な負荷を生む。組積造でも軸組の建築でも「天井とはプラスαの存在なのである」と監修の中島先生は説く。全頁オールカラーのグラビアに加え、79点の建築に添えられたコピーが秀逸で、例えばベルリン大聖堂は「戦災から復興したネオ・バロックの豪華聖堂」といった具合である。

図説 イングランドの教会堂



トレヴァー・ヨーク (著)、中島智章 (翻訳)（工学院大学准教授）

マール社
128ページ
1,580円＋税
2015年11月20日

イングランドでは教会堂を抜きにして歴史や建築を語ることは出来ない。しかし素人目には素材や建築様式の判断は難しい。本書では子供時代から古い建物に魅せられ、イングランド中の建築をめぐり歩いた筆者が、写真と細部のイラストのみならず、架空の「作例」で教会堂の特徴を説明してくれる点が興味深い。中島先生の西洋建築の造詣の深さに裏打ちされた翻訳が素晴らしい。

Kogakuin University School of Architecture

YEARBOOK 2014

工学院大学建築学部活動報告

工学院大学建築学部

フリックスタジオ
200ページ
1,800円+税
2015年6月1日

日本初の「建築学部」第一期生の卒業を迎えた2015年にリニューアルして刊行した、工学院大学の伝統とも言える優秀作品集。まちづくりからインテリアデザインに至るまで、建築をより多角的に捉えた課題や、学園生活・イベントの様子なども盛込まれており、優秀作品集としてだけでなく、本として手にとっても面白い内容となっている。工学院大学の「今」を伝える１冊。

苦手克服！これで完璧！

矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計

中山繁信（工学院大学元特任教授）、細谷功、長沖充、蕪木孝典、伊藤茉莉子、杉本龍彦（2014年院卒）

オーム社
210ページ
2,800円＋税
2015年4月15日

矩計図を苦手とする人のために、図面の見方から描き方までを順番に指南している。１章では図面を構成する線の種類や太さをひもとき、２章では階段や屋根やカーテンボックスなど部位の収まりを見て、３章では建築全体を細かい部位の集積として見る目を養う。４章で清家清、吉村順三、宮脇壇による手書きの図面を眺める頃には、確実に矩計図に親しむ力がついているだろう。

滞在型市民農園でムラを救う

地域支援長期滞在型市民農園の試み

東正則（工学院大学元教授）

農林統計出版
180ページ
2,200円＋税
2015年3月10日

農業を救う一手として、滞在型市民農園は農林水産省の補助金や都道府県の事業費など多大な税金によって整備されてきた。しかしその利用者は農業を趣味的に体験する少数の都市住民に限られている。今後の都市農村交流の発展を目指す方法と、農村支援のあり方を、地域支援、景観と文化遺産の維持、伝統工芸の継承、地域資源保全、起業支援等のキーワードから読み解く。

日本でいちばん美しい町並

第３巻　関東シリーズ

工学院大学伝統的建築物群アーカイブ実行委員会

ホライズン映像研究所
47分
3,500円＋税
2015年12月1日

既刊の「第１・２巻近畿シリーズ」に続き、2015年12月「第３巻関東シリーズ」を発売。全て空撮を使い、重要伝統的建造物群の町並が堪能できる。対象とする地区は、次の６地区。埼玉県川越市川越、千葉県香取市佐原、茨城県桜川市真壁、群馬県中之条町六合赤岩、群馬県桐生市桐生本町、栃木県栃木市嘉右衛門町。

第４巻　甲信越シリーズ

工学院大学伝統的建築物群アーカイブ実行委員会

ホライズン映像研究所
59分
3,500円＋税
2015年12月1日

第３巻と同時に「第４巻甲信越シリーズ」を発売。日本建築の美しさ、伝統と誇りを伝え続ける町並を映像化した。ハイビジョン撮影による完全保存版で、理屈抜きにタイムスリップして町並巡りを楽しめる。７地区を収録。長野県塩尻市奈良井、長野県南木曽町妻籠宿、長野県塩尻市木曽平沢、長野県東御市海野宿、長野県白馬村青鬼、山梨県早川町赤沢、新潟県佐渡市宿根木。

※第３巻・第４巻セットを、同窓会員には4,320円（税込、送料別）の割引価格で提供します。問い合わせ・申し込み：TEL0120-04-3737　Email：kogakuin-denken@email.plala.or.jp

東京の老舗を食べる

安原眞琴、冨永祥子（工学院大学准教授）

亜紀書房
204ページ
1,600円＋税
2015年6月25日

50年以上続くレストラン25軒の臨場感を記した単行本。情報はグルメサイトで事足りるが、この本では日本文学研究者の安原氏が老舗の言われを語り、2010年に『モーニング』誌でちばてつや賞に準入選した冨永先生がイラストで店の今を描く。「いせ源」に今入ってきた客の姿を神棚越しに見る構図や、「蓬莱亭」で客の頭越しに眺める板前や給仕に、老舗の臨場感が感じられる。

プロセスでわかる

住宅の設計・施工

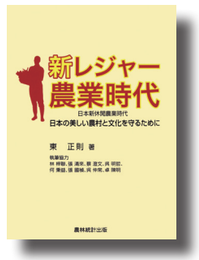
鈴木敏彦（1984年院卒）
半田雅俊（1973年卒）

彰国社
160ページ
2,200円＋税
2016年4月10日

本書は工学院大学建築学部の人気講義「建築プロセス論」の内容をまとめたものである。半田先生は数多くの住宅において依頼から、竣工、引き渡しまでのプロセスを経験し、さまざまなノウハウを会得してきた。各章のQ&Aでは実務の紹介に留まらず、学生の切実な問いに真摯に答えている。建築を学ぶ学生のみならず、社会で悪戦苦闘する建築家たちを後押しする１冊。

新レジャー農業時代

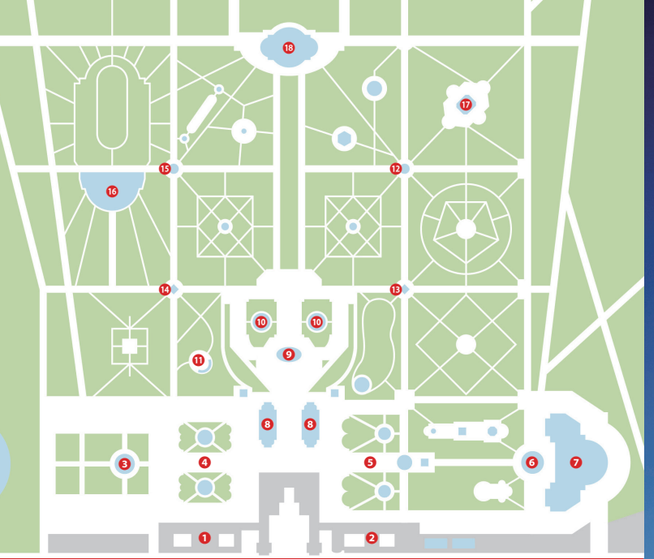
日本の美しい農村と文化を守るために



東正則（工学院大学元教授）

農林統計出版
146ページ
2,000円＋税
2015年6月30日

ヨーロッパではグリーンツーリズムが普及したが、本来アジアのほうが都市と農村の関係が密接だと東先生は説く。日本では農家経営の補助として収穫やもぎ取り体験を実施しているのでレジャー農業としての進展が遅い。一方、日本を手本に取り組んだ台湾では、飲食、宿泊、物販の収益性から既にテーマパーク化が進んでいる。今後、日本に求められるレジャー農業のあり方を説く。



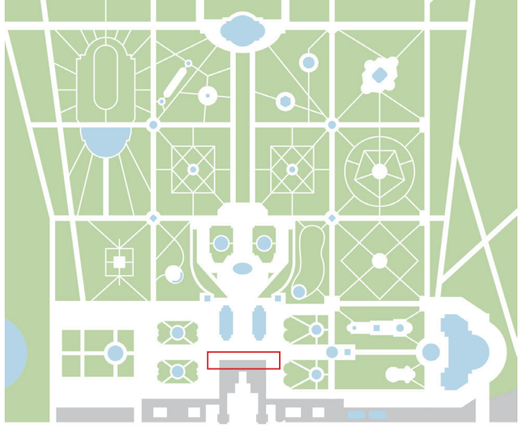
❶南の翼棟
❷北の翼棟
❸オランジュリー
❹南花壇
❺北花壇
❻竜の泉水
❼ネプテューヌの泉水
❽水花壇
❾ラトーヌの泉水
❿とかげの泉水
⓫舞踏の間のボスケ（木立）
⓬春の泉水
⓭夏の泉水
⓮秋の泉水
⓯冬の泉水
⓰鏡の泉水
⓱オベリスクの泉水
⓲アポロンの戦車の泉水

特集 1

中島智章と巡るヴェルサイユ宮殿

2015年８月22日。雲ひとつなく青い空が晴れ渡り、最高気温31度の真夏日となった。西洋建築史を専門とする中島先生に、この世界遺産を深く知る鍵となる７つの話題を提供してもらった。ここでは３つ目と４つ目の鍵を抜粋して紹介する。

サングラスをはずすと中島先生はおもむろに語り始めた。「ルイ14世は1638年９月５日に、パリの北西、サン・ジェルマン・アン・レ城館で生まれました。父はルイ13世、母はハプスブルク家から来たスペイン王女アンヌ・ドートリシュ。ようやく結婚後23年で生まれたのが太陽王ルイ14世です。ルイ14世はルーヴル、シャンボール、フォンテーヌブロー、サン・ジェルマン・アン・レなど多くの城館を所有していましたが、ヴェルサイユに貴族全員が集まりうる空間として鏡の間を整備し、王族や一部の貴族が住む南と北の翼棟を作り、70年代後半〜80年代に公的な宮殿としての姿を整えたのです」



ヴェルサイユ宮殿の庭園側正面ファサード

3 マスクの要石の意味

ファサードの表現は、宮殿内部の図像計画と庭園の図像計画のつなぎと考えられます。宮殿内側では神話に基づいた図像計画により、王と王妃のアパルトマンは七惑星を象徴する７室の広間で構成されていました。宮殿の外側では太陽神アポロンを中心とした計画に沿ってラトーヌの泉水があり、アポロンの戦車の噴水があり、さらに四季を表す神々の泉水があって、噴水だらけです。

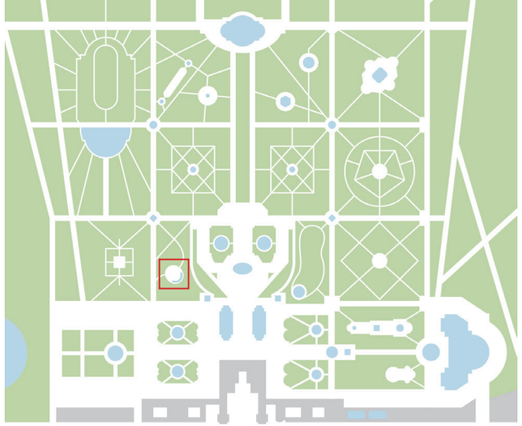
それでは、庭園と内部の広間群の間に位置する新城館西側ファサードはどうでしょうか。その彫像の並びに注目しましょう。ヨーロッパでは通常左から右に並べますが、黄道12宮の彫像群は右から左に並べられています。なぜでしょうか。おそらく天球上における反時計回りの並びを反映して、右から順に黄道12宮の白羊宮から双魚宮までが並べられているのではないでしょうか。さらに１階の窓のアーチのキーストーンに施されたマスク装飾も右から左にだんだん年をとっていきます。つまり、太陽神アポロンを中心とする図像計画に則った西側ファサードの上では右から左へ時が巡って行くのです。仮面の彫像にしても黄道12宮にしても、宮殿の外の世界と中の世界を図像でつなげようという意図があります。

現在のファサードは1678年にジュール・アルドゥアン＝マンサールによって鏡の間が増築された時以降のもので、それ以前は２階の中央部11スパンが３スパン分セットバックしていて、中央に泉水を備えたテラスとなっていました。この増築の時に、３階ファサードの彫像設置場所が２カ所増えたので、中央にアポロン像とディアーヌ像が加えられました。

一方、ここに示した23のマスク装飾は、このときにあまり手が加えられなかった１階にほどこされたので、鏡の間以前の様相を示しています。黄道12宮の彫像群（1670〜71年）より後の1673年から1674年にかけて企画、制作されています。黄道12宮の並びに従って、右から左へだんだん年を取ってくる傾向があると述べましたが、よくよくみると担当した彫刻家が各自腕をふるった様々なデザインがみられます。

会計記録を見ると、1674年時点においてマニエが４体で140リーヴル、ル・グロが６体で800リーヴル、ビュイステルが３体制作済みで105リーヴル、マルシーが複数体で515リーヴル、ル・グロとマソンが複数体制作済みで210リーヴル、デジャルダンが4体で120リーヴルという具合になっています。

23のマスク装飾



「舞踏の間」のボスケ（木立）　Bosquet de la Salle de Bal

4 ヴェルサイユの宮廷庭師

2014年に「ヴェルサイユの宮廷庭師」（原題"A Little Chaos"）という映画が公開され、私は試写会で拝見しました。庭師といっても、植物を相手にする人や、噴水を手掛ける人、それらに導水する鉛管を用意する人などいろいろな役割の職人がいました。ル・ノートルは庭師のトップで、ジェネラルデザインを手掛けました。映画の女性庭師もル・ノートルと同様にジェネラルに庭園をデザインする立場で描かれていましたが、フィクションです。また、ル・ノートルがやたら若かったのですが、あの「舞踏の間」の噴水を手掛けたのは1680年から1683年にかけてなので、ル・ノートルは実際には、あのようなイケメンではなく70代のおじいさんのはずです。噴水技術に関してはイタリアから来たフランシーヌー族、庭園全体に水を送る水道技術に関しては別のグループがいましたが、それはムック本でお話しましょう。

映画に登場する「舞踏の間」のボスケ（木立）　Bosquet de la Salle de Bal

「舞踏の間」が建設されていた時の「王の建設局」の会計記録をみると、1680 年には栗の木を調達したり、土を運んだり、セメント工事をしたりした人に代金が支払われており、1681 年の会計記録では「舞踏の間」ほぼ単独での項目が立てられていて、ここで大幅に工事が進んだものと思われます。「石積みと掘削」「金具」「ロカイユ（貝殻装飾）」「鉛管」「建具」の費目があって、噴水に水を導く鉛管には 36,000 リーヴルが投じられています。

なお、この会計記録をつらつら見ていると、死亡したり怪我をしたりした職人への補償金の記述もあって、だいたい 20 ～ 30 リーヴルであることを思うと、当時の建設材料が人命に比していかに高価だったのかがうかがえます。

特集 2

第一回文部省フランス留学生、古市公威

香川 浩、中島 智章（日本語訳）

古市はフランス到着後、まずパリのエコール・モンジュ（現、リセ・カルノ）で学ぶ。ここを１年で卒業した彼は、エコール・サントラル（現、ピカソ美術館）に入学する。民間技術者を養成するこの学校で、彼はフランス流シヴィル・エンジニア精神、つまり土木に限定されず、機械、科学、冶金など工学のあらゆる分野に通じるという技術者の精神を学ぶ。学校では厳格な規則に縛られる日々のもと、勉学に邁進し、全体で７番（土木専攻41人中では２番）という優秀な成績で卒業する。ここでの３年間の経験と、工学の基礎として高等数学さらに政治経済学を学んだパリ大学での１年の経験が、工学の総合性を訴える彼の土木学会第１回会長講演に結実している。（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブス）

第１回文部省貸費留学生（1875 年撮影『古市公威』所収）前列右より小村寿太郎、松井直吉、原口要、菊地武夫、齋藤修一郎、後列右より平井晴二郎、長谷川芳之助、古市公威、安東清人、南部球吾、鳩山和夫（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブスからの転載）

エコール・モンジュ 1875 - 1876

エコール・モンジュ在籍時の宿舎はセーヌ右岸のパリ９区であった。学校はサン・ラザール駅の向こう側、東に約１キロほどの場所にあり、徒歩で15分ほどであっただろう。学校のすぐ南にあるモンソー公園（ルドゥーのロトンダがある）で、息抜きでもしただろうか。

パリ留学時代 1875 - 1880

古市公威が学生時代を過ごしたパリは、街そのものが大きな変化を遂げ近代化が進行しつつあった。セーヌ県知事オースマンによる大改造を終え、中世以来の雑然とした路地は大きな街区となり、鉄やガラスを多用した市場や工場や、フランス各地へと接続する終着駅が市周縁部に建設された。概ね現在見られる街並みとなってきたが、市内の交通は乗合馬車が主力であった。鉄道はほぼ現在の市境に沿った環状鉄道のみで、メトロの登場は1900年まで待たねばならない。

パリ大学 1879 - 1880

５年間と定められていた留学期間の最後の１年（1879－1880）は、パリ大学理学部に学んだ。実践を重視するエコール・サントラルでは重きを置かれていなかった高等数学を修め、数学科学士の学位を取得する。東京大学の古市文庫に収められているノートによれば「解析数学」「微分計算」「理論力学」「複素数に関する補講」の数学関係に加え「政治経済学」「参政権の原理」を受講しているところがフランス的で、かつ古市の考える技術の総合性を示しているように思われる。

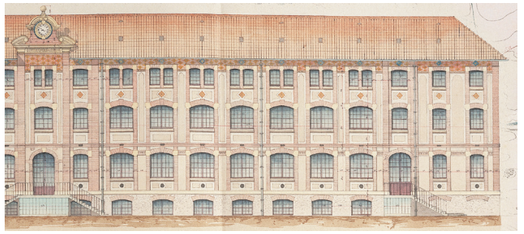
エコール・サントラル 1876 - 1879

古市はエコール・サントラル入学後、セーヌ右岸パリ３区の学校から徒歩５分程の場所にあるホテルにて、同校に在籍する日本人３人（山田寅吉、沖野忠雄、山口半六）と共に過ごした。こちらでは美しいヴォージュ広場を訪れただろうか。

手前から２軒目が古市公威が宿泊したホテル

地図作成協力：北野太爽

旧エコール・モンジュ



古市の描いたエコール・モンジュ新校舎（東京大学社会基盤工学専攻図書室『古市文庫』所蔵）（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブスからの転載）

右写真正面の壁中央に掲げられた石板とプレート「アール・ギー・モケ（ギー・モケ・ホール）ギー・モケはリセ・カルノの生徒で、1941 年 10 月 22 日、17 歳の時にシャトーブリアンにおいてドイツ人たちに銃殺された。」（訳）

「2003 年 10 月 22 日リセ・カルノはギー・モケを記念するとともに、仏独友好条約 40 周年を祝す。この記念祝典を独仏国民の和解に捧ぐ。」（訳）

エコール・モンジュ
1875 - 1876

エコール・モンジュは土木技術者エメ・ゴダールによって1869年に創設された私立学校で、初等教育から大学および高等専門学校（グランゼコール）への入学準備までの幅広いクラスで構成された、現在の日本でいえば小中高の一貫教育校である。高名な数学者ガスパール・モンジュの名を校名に掲げ、近代的なエリート教育を施した。現在はリセ・カルノという国立高等学校となっており、当時の校舎やエッフェル社の設計による鉄骨とガラス屋根の中庭「ギー・モケ・ホール（通称エッフェル・ホール）」（1876）が健在である。

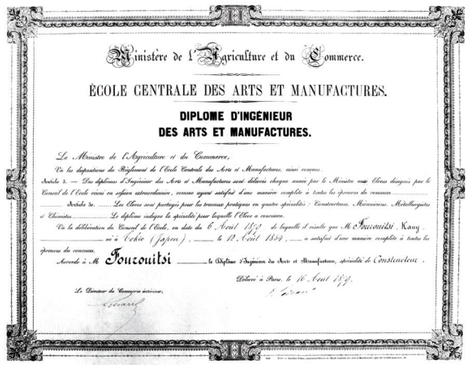
古市公威はこの学校に一年在籍し、難関であったエコール・サントラルの入学準備に充てた。この判断は東京開成学校のフランス人教師マイヨによるものであろう。はたして、合格者200人中６番の好成績で入学することになる。古市とは違い、入学準備のクラスを経ず渡仏してすぐにエコール・サントラルの試験を受け合格する日本人留学生もおり、当時の日本の教育レベルは十分に高いものであった。日本で成績優秀だった古市に、マイヨがあえてエコール・モンジュへの入学を勧めたのは、確実に試験に合格すること以上の意味があったはずである。様々な年代の学生と共に学んだエコール・モンジュでの一年間は、古市が多様なフランス教育システムを深く理解する機会となったのではなかろうか。古市には工学技術の習得だけでなく、帰国後にエコール・サントラルのような大学の設立といった、いわば日本の近代化を背負う使命があった。じっさい古市は、帝国大学工科大学（東京大学工学部の前身）のほか、工手学校（工学院大学の前身）、東京仏学校（法政大学の前身）の設立に関わるなど、教育界に尽力することになる。21歳の古市青年にとって、初めて体験する西洋の暮らしがこの学校から始まった。

エコール・サントラルの卒業生には、たとえばアルマン・プジョー（自動車プジョーの創業者）やルイ・ブレリオ（飛行機で初めてドヴァー海峡を横断）など、ユニークな人物が数多いが、なかでもギュスターヴ・エッフェル（1832-1923）の業績を知らぬものはないだろう。エッフェルの専攻は化学であったが卒業後に鉄工所に勤めた。ここで鉄道関係の仕事に関わることで土木の技術を会得し独立、エッフェル社として橋梁や建築物を手がけるようになった。そして1889年に開催されるパリ万博モニュメントの公募に勝利し、建設されたのがエッフェル塔（1889）である。建設当初、高さ約300m、鍛鉄製の塔は賛否が分かれたが、今やパリのシンボルといえよう。博覧会終了後に解体される予定を、アンテナとして活用されることで免れた経緯がある。エッフェル社は国際的に活躍しており、ヨーロッパ以外ではニューヨークの自由の女神の構造体やベトナムの建築物や橋梁なども知られている。

古市公威とエッフェルには22歳差があり直接の接点はない。しかし、エコール・モンジュの中庭に屋根をかける工事期間に古市は在学していたから、入学を目指すエコール・サントラル卒業生の仕事を、興味を持って見ていたにちがいない。そして後年、山県有朋の巡行（1888-1889）に同行しパリを訪れた際には、エコール・サントラルの同窓生としてエッフェル塔を目にしている。

1985 年よりピカソ美術館に転用され今日に至る。

エコール・サントラル時代の同級生（出典：ECP）（前列左から２人目が古市、右から３人目が山口半六、中列右端が沖野忠雄。古市の背後、あごひげを蓄えているのが鉄筋コンクリートで有名なコワニエ、山口の左上が古市と西洋公共事業調査を共にするカンタグレルである。）（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブスからの転載）



Ministère de l'Agriculture et du Commerce.

ÉCOLE CENTRALE DES ARTS ET MANUFACTURES.

DIPLOME D'INGENIEUR
DES ARTS ET MANUFACTURES.

Le Ministre de l'Agriculture et du Commerce,

Vu les dispositions du Réglement de l'Ecole Centrale des Arts et Manufactures, ainsi conçues :

Article 1er. — Les diplômes d'Ingénieur des Arts et Manufactures sont délivrés chaque année par le Ministre sur l'avis désigné par le Conseil de l'Ecole, vu en séance extraordinaire, comme ayant satisfait d'une manière complète à toutes les épreuves du concours.

..... Article 2e. — Les Élèves sont partagés pour les travaux pratiques en quatre spécialités : Constructeurs, Mécaniciens, Métallurgistes et Chimistes. — Le diplôme indique la spécialité pour laquelle l'Élève a concouru.

Vu la délibération du Conseil de l'Ecole, en date du 8 Août 1879, de laquelle il résulte que M. Fukouitsi Kang, né à Yokio (Japon), le 18 Août 1854, a satisfait d'une manière complète à toutes les épreuves du concours.

Accorde à M. Fukouitsi le Diplôme d'Ingénieur des Arts et Manufactures, spécialité de Constructeur.

Fait à Paris, le 18 Août 1879.

Le Directeur du Conservatoire national,

Le Ministre,

エコール・サントラル学位記（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブスからの転載）

エコール・サントラル 1876 - 1879

19世紀末のフランスにおいて、エンジニアを養成する高等教育機関は４校あり、そのひとつがエコール・サントラルである。創立は1829年で、他の３校と異なり、技術官僚ではなく民間のシヴィル・エンジニアの養成を目的としていた。現在の日本でいうシヴィル・エンジニアとは土木技術者を示すが、フランスではシヴィルはミリタリーの対語にあたり、もっと幅の広い民生における総合的な技術者という意味を持つ。エコール・サントラルでは土木、建築、機械、化学、冶金、鉄道など多岐にわたる分野について、理論のみならず応用を重視する教育がなされた。のちに古市は「百科全書的教育」と評している。

古市公威の勉強ぶりは伝説的で「私が１日休めば日本が１日遅れる」という逸話が知られている。卒業順位は２番であった。同時期にエコール・サントラルに在籍した山口半六は、古市が帰国後土木局に就職したと聞き、建築の道を選んだという。同じ道では敵わないと感じたのだ。なお、エコール・サントラルの校舎は現在、ピカソ美術館として使われている。

右の看板「パリの歴史　オテルサレ」

ブイエ・ド・ブールジュによって、1656年から1659年にかけて建設された。塩税徴収官オーベール・ド・フォントネのためであり、「サレ」の名はこれに由来する。横２列に広間が配されたコール・ド・ロジ（主棟）はクール・ドヌール（接道前庭）の通り側で三心アーチを描いて湾曲し、トリニー通り側の大扉の両側が半月状に湾曲して馬車の転回が容易になっている。だが、財務卿フーケの失脚により家主も破滅した。賃貸物件になると、駐仏ヴェネツィア大使モロシーニが居を定めた。

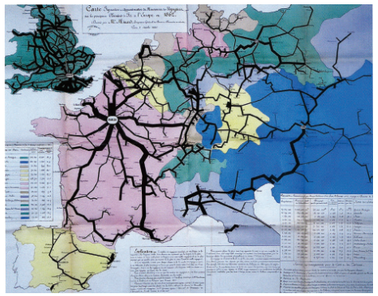
19世紀には、エコール・サントラル・デザール・エ・マニュファクチュール（中央工芸学校、1829-84）、次いでエコール・デ・メティエ・ダール（工芸学校）が1944年から1969年まで設置された。修復され、1985年にピカソ美術館として改装された。（訳）

古市公威の３冊の旅行記

東京大学工学・情報理工学図書館の「古市公威文庫」に、古市本人の手になる３冊の旅行記が所蔵されている。最初の２冊は1879年にエコール・サントラルを卒業し、パリ大学に入学するまでの間の夏休みに訪れたイギリス、オランダ、ベルギーについて。３冊めは1888年から1889年にかけて、当時の内務大臣山県有朋のヨーロッパ巡行に同行した折のもので、南フランスとイタリアについて記さている（1888年は工手学校が創設された翌年である。）几帳面なフランス語とスケッチにより、河川や港湾施設、鉄道などの状況をつぶさに視察した様子が見てとれる。あくまでも技術的な記録に徹しており、調査の野帳といったほうが適当かもしれない。

３冊の旅行記：「東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻」所蔵

2015年７月16日、東京大学工学・情報理工学図書館にて３冊の旅行記を手に感激。左から香川浩、中島智章、鈴木敏彦



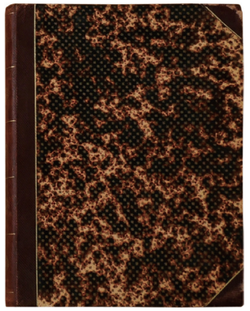
1862年当時のヨーロッパ鉄道旅客の流れ（出典：ENPC）
（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブスからの転載）

「ルグランの星」と呼ばれるパリを中心としたフランスの鉄道ネットワークが、すでに有効に機能していたことがわかる。近隣諸国とも早くから接続していた。統一されたばかりのイタリアは、まだわずかな路線しか有していない。一方、鉄道先進国であったイギリスでは各地への路線が密に網羅されており、その充実ぶりは群を抜いている。

１冊目　（布表紙装丁のノート。中央に型押し加工によるマークがあり、そこに手書きで“PM”とある。）
最初の旅行はブローニュからドーヴァー海峡を渡り、ロンドンを経てリヴァプールから時計回りにアイルランドとスコットランドを移動し、主に河口区域の航行水路の調査を行った。港湾施設のスケッチが豊富で、このときに活用したであろう鉄道と船が連携する交通ネットワークを日本でも採用すべきこと、そしてロンドンの地下鉄を挙げ都市部における地下鉄の優位性を述べている点が興味深い。二度目の旅行先はベルギーとオランダで、アントワープからアムステルダムまでの記録が書かれている。

２冊目　（１冊目とよく似た装丁だが、中央のマークが微妙に異なる。こちらにも“PM”とある。）
二度目のオランダ旅行の続きで、ロッテルダムの記録と、補足としてオランダとフランスの鉄道と舟運についての意見、そして二度の旅行の結論が書かれている。いわく、ヨーロッパの財界・産業界は大胆な事業投資を行うことで発展しており、日本も、政府に頼るばかりでなくそれに倣うべきこと。明治維新後の政府の中枢は実務経験に乏しく行政の細部に無知であるとまで述べている。そして、港湾施設は国の中心に近い立地であるべきとし横浜港ではなく東京港の開発を主張している。

西洋公共事業調査旅行経路（北河作成）
（土木学会付属土木図書館デジタルアーカイブスからの転載）



３冊目　（マーブル地にヘキサグラムが配された紙の表紙で、背には金のラインが入る装丁。）
１冊目と２冊目の邦訳の解説の中で３冊目の存在に言及されているが、邦訳はまだないので、ムックにてフランスに関わる部分だけを試訳して掲載する。タイトルは“Notes sur les travaux publics en Europe”であり、『ヨーロッパの公共事業についての覚書』とでも訳せようか。ノートそのものには著者名、執筆年月日などが明確に記されているわけではないが、井口（1986.8）、p.65によると古市が1888年から1889年にかけて南仏プロヴァンス地方とイタリア各地の港、ボー川を視察したときの覚書とある。

南仏訪問に関わる部分は、主にデュランス川について論じた第１部とマルセイユ港を取り上げた第２部からなる。第１部ではデュランス川の洪水対策で言及するに値する重要な部分はミラボーとアヴィニョンの間80kmほどであり、ミラボーより上流についてはあまり言及されていない。記述の順番としては、上流のミラボーから始まり、60kmほど下流のボンパまでペルテュイの吊り橋やファリグリエ堤防などのハードウェアの記述が続き、ボンパからクールティーヌを経てローヌ川との合流点に至る、残りの16kmほどについての記述が続く。古市が実際に視察したのはデュランス川右岸のヴォークリューズ県側であり、対岸のブーシュ・デュ・ローヌ県側には渡っていないようだが、全体を通じてこの左岸側の対策について評価が辛い。この本文の後に註記の形で、ローヌ川、吊り橋群、道路、道路保安要員の組織構成について順に解説している。

一方、第２部ではマルセイユ港のラ・ジョリエット埠頭を中心として、港湾施設そのものよりも港湾関連会社について、貨物の荷揚げなどに関わる費用、港湾要員の構成や数などについて記録している。ハードウェアに大きな関心を寄せる第１部に対し、第２部では港湾要員の組織などのソフトウェアに力点を置いた記録になっている。この両者の書きぶりの違いに、それぞれに対する眼差しの違いが表れていて面白い。
（中島）

出典　井口昌平「古市公威の見学旅行記」１～４、『にほんのかわ』30、31、33、35（日本河川開発調査会）、1984年10月、1985年４月、1986年３月、1986年８月

３冊目P.8の古市直筆のスケッチと記述（NICHE mook 03にて南仏関連の翻訳）

ポン・ダヴィニヨン
Pont d'Avignon

堤防
Levée

ボンパ
Bonpas

ポン・デュ・ガール
Pont du Gard

鉄道橋
pont ferroviaire

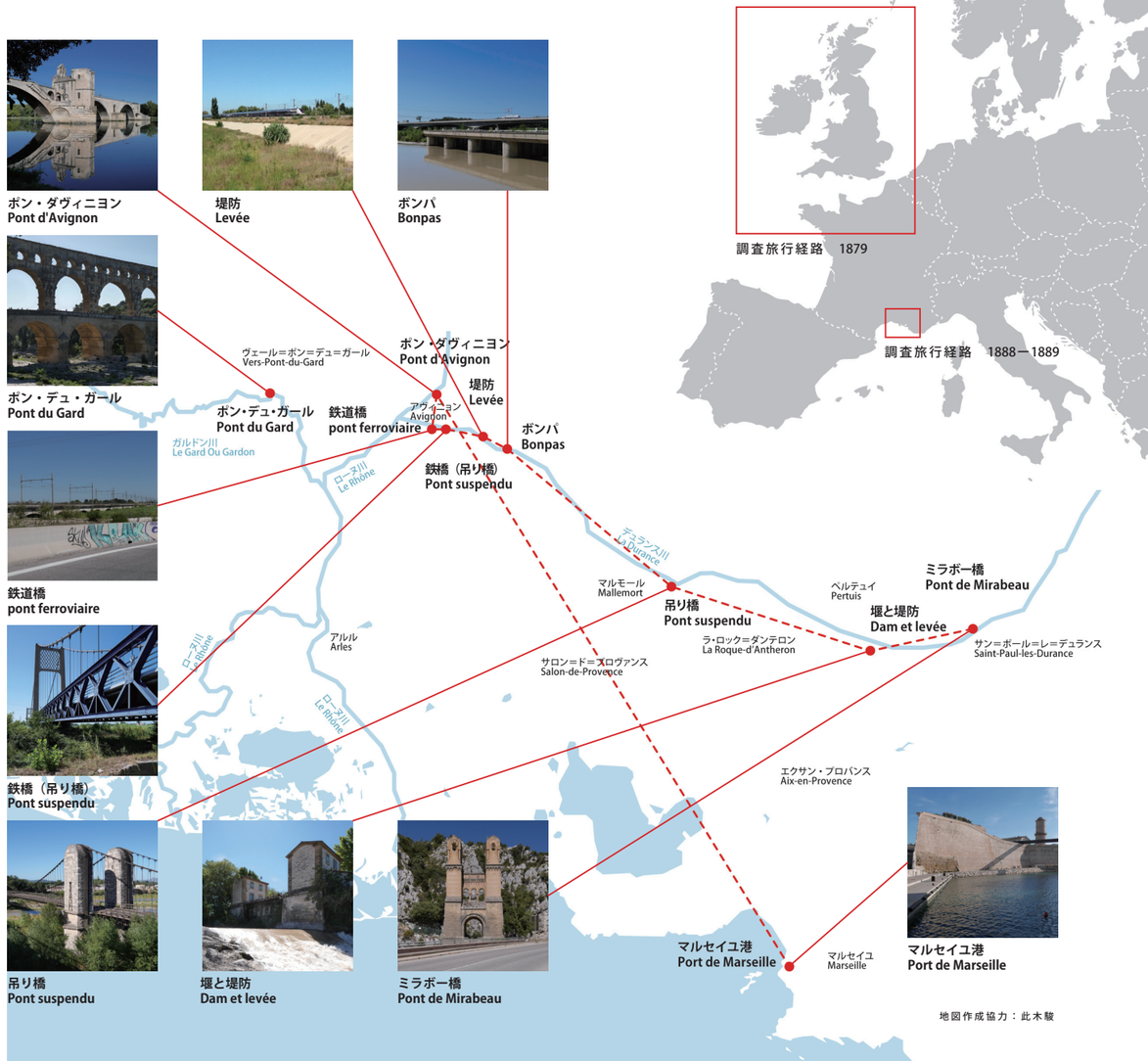
鉄橋（吊り橋）
Pont suspendu

吊り橋
Pont suspendu

堰と堤防
Dam et levée

ミラボー橋
Pont de Mirabeau

マルセイユ港
Port de Marseille



地図作成協力：此木駿

特集 3

ジャン・プルーヴェ再考

ジャン・プルーヴェと同時代の仲間達

鈴木 敏彦

ジャン・プルーヴェは1981年に、「これまで一緒に仕事をした建築家のうちで最も強く印象を受けたのは」という質問に対して、ル・コルビュジェとピエール・ジャンヌレの名を挙げた。

（『ジャン・プルーヴェ』 TOTO出版、2004年、pp.244-245、ギュメット・モレル＝ジュルネル）

本特集では、ジャン・プルーヴェにとって最も強い印象を残した、ル・コルビュジェとピエール・ジャンヌレ、そして、彼らとの接点を生み出したマレ＝ステヴァンス、さらには、後に著作権で係争関係になるが、多くの家具デザインを協働したシャルロット・ペリアンにフォーカスする。彼ら同時代の仲間達との協働でジャン・プルーヴェが成し得たことを探る。

Jean Prouvé

ル・コルビュジェは、『モデュロールII』においてこう述べている。

「ジャン・プルーヴェ氏は、“建築家”がどういうタイプの人間であるかを、きわめて雄弁に体現している。（中略）私がここで言いたいのは、プルーヴェ氏においては、建築家とエンジニア、いや本当のところ建築家と建設家が不即不離に結びついているということである。彼が手に触れ、構想するものはすべてただちに優雅な造形的形態をとるのである」。（『ジャン・プルーヴェ』 TOTO出版、2004年、pp.244-245、ギュメット・モレル＝ジュルネル）

結局、建築家は紙に描いた絵を実現しなくてはならない。その際、プルーヴェのような建設家に協力を仰ぐことができれば、なんともたのもしいことだろう。多くの建築家がプルーヴェと協働したことが理解できる。

ジャン・プルーヴェの長女フランソワーズの写真アルバムより複写

左からステフ・シモン、マルタ・ヴィリガー、ジャン・プルーヴェ、シャルロット・ペリアンとメモ書きされている。

プルーヴェと同時代の仲間達

Mallet Stevens

Jean Prouvé

Charlotte Perriand

Le Corbusier

Pierre Jeanneret

1900

第一次世界大戦
1914-1918

1920

1930

第二次世界大戦
1939-1945

1940

1950

1960

1970-1990

Mallet Stevens

- 86　フランス／パリで生まれる
- 26　パリのマレ・ステヴァンス通りに集合住宅
- 27　ライフェンベルク邸の入口格子。その後ル・コルビュジェ、ペリアン、ジャンヌレとも交流を持つ
- 28　パリのシュシェ通りのゴンベル邸の門扉
- 29　現代芸術家連盟（UAM）の創立メンバーとなる。
- 30　メシャン通りのアパートの門扉
- 45　死去59歳

Jean Prouvé

- 01　鉄工芸職人の父の元 フランス／パリで生まれる
- 24　ナンシーのジェネラル・キュスティーヌ通りに最初のアトリエを構える
- 29　現代芸術家連盟（UAM）の創立メンバーとなる。
- 31　ナンシーのジャルディニエ通りに工場を開き、アトリエ・ジャン・プルーヴェ株式会社を設立
- 37　ル・コルビュジェ、ピエール・ジャンヌレ、シャルロット・ペリアンと協働。パリ万国博覧会においてサニタリーユニットを展示
- 39　SCAL（軽合金中協会）の仮設の薄鋼板工場の建設。統括：ジョルジュ・ブランション、設計：ピエール・ジャンヌレ、内装・調度品：シャルロット・ペリアン、技術的立案・製造：ジャン・プルーヴェ　（ル・コルビュジェを除く）
- 46　ユニテ・ダビタシオンのプレファブ式住居単位
- 47　マクセヴィルにアトリエを構える
- 49　ル・コルビュジェと協働。マルセイユのユニテ・ダビタシオンの金属製床構造、階段およびキッチンとモデルルーム用の家具の制作。キッチンはペリアンのデザイン
- 49　「第１回実用造形展」で発表した収納ユニットの作品を見たアトリエ・ジャン・プルーヴェの家具部門からオファーを受ける
- 51　パリ学生会館図書館用の照明内蔵型テーブル
- 52　チュニジア館とメキシコ館の本棚の開発・生産
- 53　マクセヴィルのアトリエを去る M・バタイユとコンストリュクシオン・ジャン・プルーヴェ社を設立
- 56　ステフ・シモンのギャラリー開設
- 57　CIMTによるコンストリュクシオン・ジャン・プルーヴェ社の吸収合併。ジャン・プルーヴェはコンサルタント・エンジニアとして自由な立場を確保しつつ、同社建設部門の責任者に就任
- 58　現代芸術家連盟（UAM）活動終了
- 66　CIMTを離れ、パリのブラン・マントー通りにアトリエを開設
- 68　坂倉準三の要請に応えて在仏日本大使公邸の建設に協力
- 70　シャルロット・ペリアンとの協働。サヴォア県のアルク2000
- 84　ナンシーで死去82歳

Charlotte Perriand

- 03　服飾職人の両親の元 フランス／パリで生まれる
- 21　UCAD入学、装飾美術と絵画を学ぶ
- 25　UCAD在学中に装飾芸術国際博覧会（パリ、いわゆるアール・デコ博）に出展、作品が展示される
- 27　サロン・ドートンヌに出展した屋根裏のバーをル・コルビュジェに認められアトリエに入所。三人で協同し家具を製作
- マレ=ステヴァンスは初代会長、シャルロット・ペリアン（創立メンバー）。ル・コルビュジェ、ピエール・ジャンヌレもその後メンバーとなる
- 29　サロン・ドートンヌの「生活調度品展」出展
- 37　ル・コルビュジェのアトリエを辞める
- 40　BCC中断後日本に来日。日本を巡り竹文化に触れる
- 46　パリに戻る。ユニテ・ダビタシオンでオープンキッチンのプロトタイプを設計
- 52　エールフランス社の社宅内装を協働、これを機に家具部門の合意書にサイン
- 99　パリで死去96歳

Le Corbusier

- 87　時計職人の父の元 スイス／ジュネーヴで生まれる
- 20　ル・コルビュジェというペンネームを使い始める
- 22　ジャンヌレと共に事務所を構える。以後36年まで共同
- 25　装飾芸術国際博覧会（パリ、いわゆるアール・デコ博）で「エスプリ・ヌーヴォー館」設計
- 36　ル・コルビュジェがドイツのナチス政権に与したためアトリエを辞める。その後、協働することもあった
- 40　ジャン・プルーヴェと協働。避難民のための移動式学校、内部ボルティーク（柱廊）構造の村民クラブなど
- 51　インドのチャンディーガル都市計画を監督
- 52　マルセイユの「ユニテ・ダビタシオン」
- 63　ル・コルビュジェ・センター設計
- 65　フランスで死去78歳

Pierre Jeanneret

- 96　スイス／ジュネーヴで生まれる
- 20　オーギュスト・ペレの事務所に２年間勤める
- 67　死去71歳

参考文献
『ジャン・プルーヴェ』TOTO 出版　2004 年
『シャルロット・ペリアンと日本』鹿島出版会　2011 年

イラスト：高橋奈々　年表作成協力：佐藤省三

Mallet Stevens × Jean Prouvé

ナンシーの一鉄細工職人であったプルーヴェがモダニズムを標榜する建築家との知遇を得ようとしてパリのマレ=ステヴァンス事務所を訪ねた。所長を務めていたゲヴレキアンは一旦は面会を断わったものの、持参したポートフォリオを見せるや、マレ=ステヴァンスに取り次いだ。マレ=ステヴァンスは、即座に「ライフェンベルク夫人のアパート」(1927)のためのグリルをプルーヴェに発注する。「スケッチも、見積書もいらない。とにかく欲しいのはグリルなのだ」。このマレ=ステヴァンスの言葉は、その後プルーヴェ自身が幾度も口にし、さらに歴史家たちによって語り継がれてきた。（『ジャン・プルーヴェ』TOTO、p.126、オリヴィエ・サンカルブル）

「マレ・ステヴァンス通り」という名前の袋小路にある6棟の建築物は、建築家ロベール・マレ=ステヴァンスが設計した、自身のアトリエと友人の住宅からなる都市建築である。初期モダニズムらしいホワイトキューブを中心に構成されるが、マスの大きさや開口部の形状がバラエティに富んでおり、時折現れる曲面も効果的で、たいへん豊かな街並みを形成している。金属製の門扉やグリルはジャン・プルーヴェによるもので、それぞれの住宅の視覚的なアクセントとなっている。ナンシーの鉄職人だったジャン・プルーヴェはマレ=ステヴァンスからの依頼をきっかけにモダニズムの建築家たちとの協働を始めることになる。建設期間は1926～1934年。近傍にはル・コルビュジエによる「ラ・ロッシュ=ジャンヌレ邸（現ル・コルビュジェ財団）」がある。

ヴィラ・ライフェンベルク　1927
鉄格子、鉄柵

Villa Reifenberg
4, rue Mallet-Stevens, Paris 16e

メゾン・マルテル　1927　1階のギャラリー。プルーヴェは階段手摺の他、ラジエーターのカバーや金属製建具を担当。手前の大型デスクはピエール・ジャンヌレのデザイン。

Maison Martel, 10 rue Mallet-Stevens.

手前のイージーチェアはピエール・ジャンヌレ、奥のベッドはプルーヴェのデザイン。

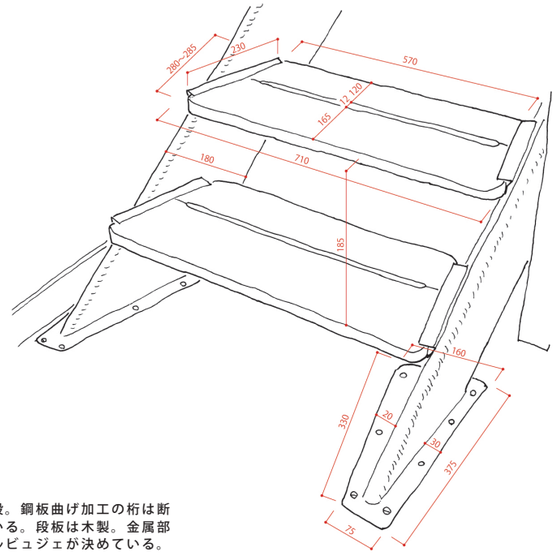
e Corbusier × Jean Prouve

プルーヴェは1982年のテレビのインタビューで次のように語った。

「私たちは建設の方法が違っていた。そして、まさしくそれこそが、私がル・コルビュジェの恩恵にあずかることができた理由のひとつでしょう。私は模倣者ではありません。協力とは、普通、誰かと一緒に企画し、その人のために働くことを意味しますが、同時に、自分の姿を見据え、意見を交換し合い、あまりうるさく説明するのは無駄だということをただちに理解することでもあるのです。同じ行動方針の持ち主であるなら、冗長な説明は無用だからです。私たちは一瞬で理解し合い、私たちなりのやり方で助け合ってきました」

『（『ジャン・プルーヴェ』 TOTO出版、2004年、pp.244-245、ギュメット・モレル＝ジュルネル）

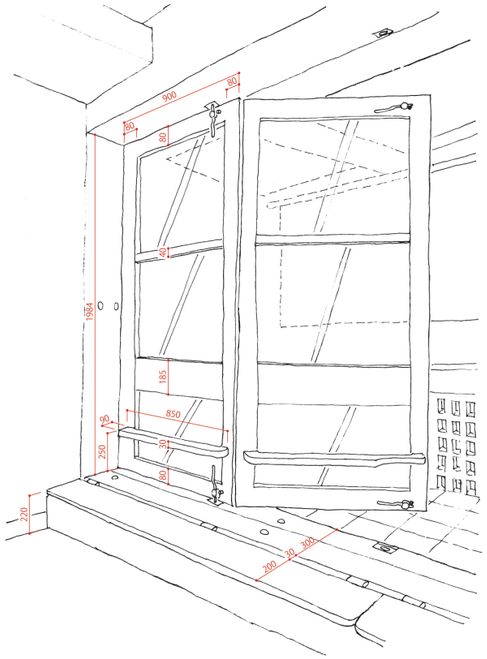
マルセイユのユニテ・ダビタシオンは、第二次大戦後の復興住宅として計画され、ル・コルビュジェが若い頃から構想していた立体的な都市住宅を実現する機会となった。18階建て337戸、約1600人が暮らすことができる。住宅のほか商店街、集会場、保育園、アスレチックジム、プール、庭園などを備え、建物内で生活のほとんどが満たされる。それらがピロティによって持ち上げられ、あたかも巨大客船のようだ。住戸はメゾネット形式で3階毎にある中廊下からアクセスする。各所の寸法はモデュロールによって決定され、部材にプレキャストコンクリートを多用するなど、計画的にも構法的にも極めてシステマチックな建築である。各住戸に備えたキッチンや階段、鋼製の床などはジャン・プルーヴェが担当した。現在はホテルも営業しており宿泊が可能である。1952年竣工。



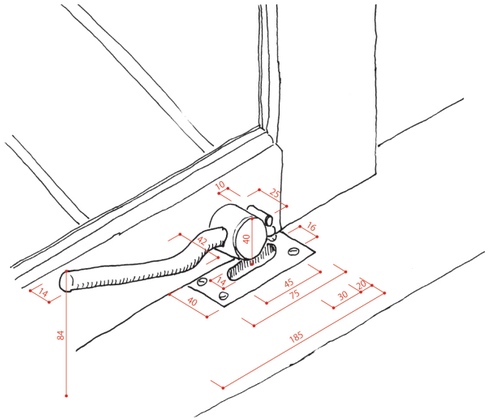
プルーヴェによる階段。鋼板曲げ加工の桁は断面が三角形となっている。段板は木製。金属部塗装の色彩はル・コルビュジェが決めている。

メゾネット住戸西側吹き抜けの開口部。左上のキャットウォークは、後年メンテナンス用に付加されたもの。サッシ下の立ち上がり部はベンチとして使用でき、その下には暖房が組み込まれガラス結露対策にもなっている。サッシ側には木製のバンパーが取り付けられている。

Drawings by Hiroshi Kagawa



ブルーヴェによるサッシ固定金物。鉄製で重さがあり、締め込むとしっかりしたトルク感がある。ネジ類はマイナスネジを使用。

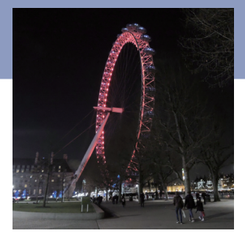


NICHE PASSPORT

海外建築レポート

若者よ、旅に出でよ！
工学院大学建築学部同窓会では、在学生の海外研修をサポートしている。2015年度の海外渡航奨励金制度を利用した学生たちからレポートが届いた。

Flight 01 February 2015



ロンドンの建築事情
小向 叶恋

2月2日　成田発　ロンドン着
2月3日　ハイドパーク、セントポール大聖堂、ミレニアムブリッジ、テートモダン、ビックベン、ロンドンアイ、ロンドン塔、タワーブリッジ、タワーブリッジハウス
2月4日　バッキンガム宮殿、大英博物館
2月5日　ロンドン発
2月6日　成田着

Flight 02 March 2015

環境先進国 ドイツの建築を求めて
米山 嘉貴

3月1日　成田発
3月2日　フランクフルト着、アリアンツ本社ビル、レーマー広場、マインタワー、フランクフルト大聖堂、モダンアート美術館見学
3月3日　ベルリン市内へ、首相府、ドイツ連邦議会議事堂、ソニーセンター、新ナショナルギャラリー見学
3月4日　ケルンへ移動、ケルン大聖堂、ローマ・ゲルマン博物館、ルートヴィヒ美術館、コロンバ美術館　ミュンヘンへ移動、マリエン広場、新市庁舎見学
3月5日　ノイシュバンシュタイン城
3月6日　ドイツ博物館、アルテピナコテーク、ノイエピナコテーク、モダンピナコテーク、ブランドホルスト博物館
3月7日　アリアンツ アレーナ、オリンピックパーク、BMW博物館、ミュンヘン国際空港(ドイツ)発
3月8日　成田着

Flight 03 March 2015

「残す」にこだわるポーランド
高橋 朋子

3月11日　成田発
3月12日　ワルシャワ着
3月13日　中世の町トルン
3月14日　バルト海に面した琥珀の街グダンスク
3月15日　ワルシャワに戻り旧王宮見学、ショパン博物館
3月16日　クラクフへ移動、織物会館など市内観光
3月17日　アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所
3月18日　ヴィエリチカ岩塩坑
3月19日　クラクフ市内ヴァヴェル城、カジミエシュ、ユダヤ人地区
3月20日　ワルシャワへ移動、旧王宮、オペラ座など市内観光
3月21日　蚤の市散策と市内観光
3月22日　ワルシャワ発
3月23日　成田着

Flight 04 March 2015

人の活動のリアルを注視するベトナム・タイ
加藤 光貴

3月21日　羽田発　ベトナム、ハノイ着
3月22日　ハノイ市街地、旧市街地、ホーチミン廟、文廟、マーケット巡り
3月23日　ハロン、ハロン湾、リゾート開発地、水上生活
3月24日　ダナン市街地、リゾート開発地
3月25日　ホイアン市街地、旧市街地
3月26日　ホーチミン市街地、サイゴン大聖堂、中央郵便局
3月27日　ホーチミン発　タイ、バンコク着
3月28日　バンコク市街地、王宮周辺、マーケット巡り
3月29日　アユタヤ遺跡群
3月30日　ダムヌンサドゥアック市街地、水上マーケット
3月31日　羽田着

Flight 05 July 2015

建築の原点「強」「用」「美」
朱 健覩

7月6日　成田発　ブリスベン着
7月7日　クイーンズランド大学、ブリスベンの橋
7月9日　ストーリーブリッジ、クイーンズランド美術館
7月10日　ブリスベン出発　メルボルン着　フリンダーススストリート駅、クイーンヴィクトリアマーケット
7月11日　メルボルン博物館、リアルトタワー展望台、旧メルボルン監獄
7月12日　サンドリッジブリッジ、プリンスブリッジ、クイーンブリッジ
7月13日　キングブリッジ、王立博覧会ビルディング
7月14日　メルボルン出発　シドニー着　シドニータワー、アンザック戦争記念館
7月15日　シドニーオペラハウス、ハーバーブリッジ
7月16日　シドニー大学、ダーリングハーバー
7月17日　The Rocks、クイーンヴィクトリアビルディング
7月18日　シドニー発　成田着

Flight 06 October 2015

新陳代謝する NY
鈴木 翼

10月6日　成田発　ニューヨーク着
10月7日　タイムズスクエア、セントラルパーク、リンカーンセンター
10月8日　ハーストタワー、トランプタワー、ソニータワー、ルイヴィトン、アップルストア、レヴァーハウス、シーグラムビル、AT&Tビル、ブロードウェイバイト、エンパイアステートビル、ニューミュージアム
10月9日　56 レオナードストリート、イッセイミヤケ トライベッカ店、SOHO、PRADA SOHO店、アート＆アーキテクチュアストアフロント、ニューヨーク近代美術館
10月10日　チェルシーマーケット、100 11番街、IAC本社ビル、ハイライン、ホイットニー美術館、ガンズボートマーケット、グッゲンハイム美術館、メトロポリタン美術館
10月11日　ウィリアムズバーグ地区、ダンボ地区、ジェーンズカルーセル、ブルックリンブリッジ、8スプルーススストリート
10月12日　グランドゼロ、ボンド40アパートメント、クーパーユニオン
10月13日　ニューヨーク発
10月14日　成田着

NICHE PASSPORT

ロンドンの建築事情

小向 叶恋

左：ロンドンアイ、中央奥：ビックベン

ビックベン

「日本はなんでそんなに建築を建てるの？」

人生のほとんどを海外で過ごしてきた友人がある日、こんなことを言った。

「イギリスでは、新築はあんまりないの。築何百年もする建物も、リノベーションすれば快適に暮らせるでしょう？日本って、どこに行っても工事してる。なんでそんなに建築物を建てるの？」

日本の一般的な考え方では、築何百年もする建物をリノベーションしたところで快適になるとは考えにくい。どこに行っても工事していることは、当たり前になりすぎて気づいていなかった。そこで、「築何百年もする建物をリノベーションして快適に暮らす生活がどのようなものなのかを知り、理解すること」、「日本以外の国での生活環境と建築物の違いについて学ぶこと」を目的に、友人の住むイギリス・ロンドンへ向かったのである。

ロンドンの街並み

ロンドンを歩いている時、様々な時代の建築物が混在していることにとても驚いた。ウエェストミンスター寺院の建設（竣工）が1065年、ビックベンが1834年の火災以降1859年に再建されたもので、ロンドンアイは1999年に建てられている。これら３つはテイストが全く異なるにも関わらず、ロンドン中心部の同じ地域に存在している。また別の地域では、ロンドン塔が1078年建設、タワーブリッジは1894年に完成、ザタワーホテルをモダニズム建築とすると20世紀、リチャード・ロジャース設計のタワーブリッジハウスが2005年に完成している為、様々な年代の建築物が隣接していると言える。そこには、イギリスの建造物を壊せない決まりが関係しているという。友人は「タワーブリッジは綺麗なのに、その手前にあるザタワーホテルが残虐的で好きじゃないの。でも取り壊すことができないのよね」と残念そうに話した。

ロンドンの一画。１階が店舗になっている

リノベーションと景観

取り壊せないからこそ生まれたリノベーションは、ロンドンのあちこちに見受けられた。一見したところアパートのようなホテルや、１階を改装してショップにしている建物が多かった。あるアパートは１階を三等分に区切り、美容室、雑貨屋、飲食店がそれぞれのスペースに収まっていた。日本であれば、店の名前が分かるように、でかでかと掲示看板を店の上部に飾り看板でアピールするが、そこには看板と言えるものが無く、景観に影響を及ぼさない程度の広告のみがあった。ロンドンでは、三階以上の高い位置に看板がある建物は稀であり、そのおかげで街並みの景観が守られているのだと思う。

最後に

確かにロンドンでは何百年も前に建てられた建築物をリノベーションし、人々が快適に生活をしていた。そこには、想像していた古めかしいものは一つもなく、神秘的とも言える空間になっていた。それには建築材量や気候が大きく影響しているが、特にリノベーションでどう見せるかという技術において、とても長けている国だと感じた。

左：タワーブリッジハウス、右奥：タワーブリッジ、右：ロンドン塔

小向 叶恋　Karen Komukai

1993　青森県八戸市生まれ
2012　青森県立南部工業高等学校建築科 卒業
　　工学院大学建築学部 入学
2016　工学院大学建築学部建築デザイン学科（鈴木研究室）卒業
2016　株式会社長谷工コーポレーション入社

環境先進国ドイツの建築を求めて

米山 嘉貴

街中に設置されたごみ箱

はじめに

この旅の目的は、環境先進国であるドイツを訪れ、建築設備と環境配慮の工夫について見聞を広めることと、様々な建築計画や展示物を見学し、今後の研究活動の表現方法を学ぶことである。多くの建築やデザイン、歴史的な建造物を見学することを前提に旅程を計画し、旅路では広い視点からものを見ることを意識した。

建築と環境への配慮

フランクフルトの歴史的な町並みと近代建築が立ち並ぶ繁華街へ足を運ぶと、ゴミ箱が街中に多く設置されており、公衆衛生や環境保護に取り組んでいることが窺えた。マイン川を挟んだアリアンツ本社ビルを見ると、その近代建築には全面にガラスを使用し、建物内部に光を取り込む工夫がされていた。

３時間掛けてベルリンへ移動すると、ガラス張りのベルリン中央駅が見えてきた。首相府などの大規模公共建築においてもコンクリートの庇を延ばして日射を遮蔽していた。また、公共空間として催し物があり、人が休む場として活用されていた。

ミュンヘンでは、地下街の天井照明のデザインが印象的であった。地下街は日本の様に扉で仕切られず、エスカレーターと階段からそのままアクセスできるようになっていたが、とりわけ寒さを感じるようなことはなかった。照明デザインや、店舗からの排熱、地下街の面積が大きいため熱の逃げにくさ等を考えながら歩いた記憶がある。

芸術と歴史を学ぶ

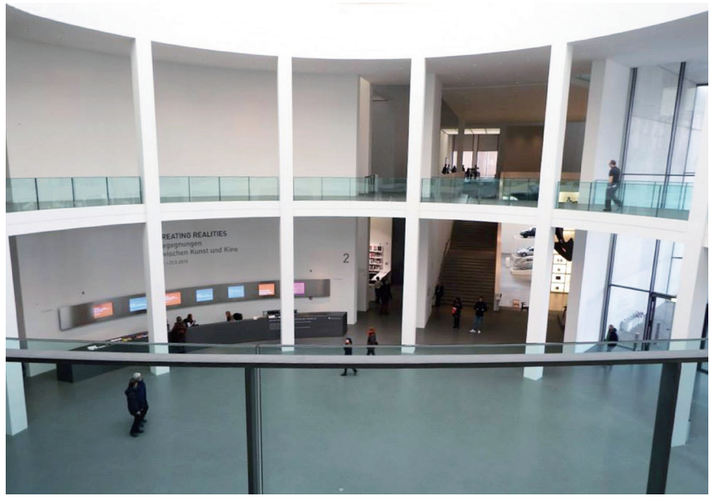
ケルンでは、ケルン大聖堂とコロンバ美術館を訪れた。コロンバ美術館の外観の一部は改修工事中であったため、全体像を確認出来なかったが、展示空間では光の取り入れ方とぬくもりがある内壁が印象的であった。

ミュンヘンのドイツ博物館は、体験型の博物館である。技術やその歴史について触れ、実際に自分が経験し、疑問を持たせる設備が備わっていた。建築の内部空間に関しては、ただ展示物が所狭しと設置してあるだけだが、その展示物の多さと上下階の賑やかさが印象的であった。次に美術館が建つエリアに移動して見学した。時系列に分けられた３つの美術館の中で最も印象に残ったのは、モダン・ピナコテークである。中心に円形の空間があり、そこから各展示室へと上下に派生していく空間が印象に残った。また、展示空間の光の取り入れ方と照明の当て方が展示物を際立たせていた。他の美術館に関しても、各々が役割をもったデザインに感銘を受けた。

旅を通して

学部最終年にしてこのような機会を頂き、とても充実した1週間となった。これまでに多くの授業と研究生活の日々を通して、建築物を見る箇所が増え、違いを把握したことが、以前海外を訪れた際と違う点であったと思う。環境先進国であるドイツではさまざまな技術と建築空間の設え、光環境の取り入れ方などを実際に見ることができた。この貴重な経験を忘れずに今後の研究活動の糧としていきたい。

シュプレー川を挟み、ベルリン中央駅外観



モダン・ピナコテーク 内部空間

コロンバ美術館 展示空間

ミュンヘンの地下街

米山 嘉貴　Yoshiki Yoneyama

1992　神奈川県生まれ
2011　神奈川県湘南台高等学校 卒業
　　工学院大学建築学部 入学
2015　工学院大学建築学部建築学科 卒業
2016　工学院大学工学部建築学専攻 (西川研究室) 在学中

将来の夢　建築設備・環境の分野から様々な提案をできるようになりたい。

NICHE PASSPORT

「残す」にこだわるポーランド

高橋 朋子

文化科学宮殿。上から見下ろされている感じ。夜はこれがライトアップされる。

ショパン、アウシュヴィッツ収容所。その程度しか思いつかなかった国だ。海外渡航奨励金の存在を知り、地図帳を開いて行き先を探した。目に留まったのは、なぜかポーランド。調べてみると建築や都市計画の面でも興味深いことがわかった。実際行ってみたら、もっと興味が湧いてきた。記載したのはそのほんの一部だ。

2015年３月12日昼過ぎ、ワルシャワに到着。目に飛び込んできたのは街の中心部にそびえ立つ「文化科学宮殿」である。社会主義時代に建てられたスターリン様式の建築で、威圧感がこの上ない。当時のイデオロギーを反映しているせいか、偉そうな外観は陰で「墓石」と揶揄される。現在はお店やホール等として活用されているが、当時体制に反発していた市民にはさぞ目障りだっただろう。嫌なら壊せばいいのに、ちゃんと残している。解体費用の問題だけではない気がする。

３月13日、港街グダンスク。観光エリアにはバルト海産の琥珀の店が数多く立ち並ぶ。地元の人が行く店も覗いてみようと市営市場に向かうと、そこには驚きの光景が！なんと遺跡の上に、というか中に、市場があったのだ！どうやら廃墟になった教会を市場にリノベーションしたらしい。ここまで徹底して残すと、もはや教会の中に市場があるといっていい。しかし天井から差し込む自然光と石造りの土台を照らすスポットライトが見事に調和し、とても素敵な空間だった。

３月17日、アウシュヴィッツ・ビルケナウ収容所。ポーランドに来たからには避けて通れない場所だ。第一収容所のアウシュヴィッツがよく知られているが、第二収容所のビルケナウの方がずっと広い。日本人のガイドさんに案内をお願いしたのは正解だった。丁寧にわかりやすく説明してくれるため、凄惨な事実を知ることになる。一例を挙げると、虐殺された人々の毛髪は建物の断熱材等に加工された。現物と納品書が今も残されている。人は、数値化された「人」に対しては、個々の生きざまを想像せずにすみ、したがって心を痛めることもない。人間が授かった創造力を、極限まで負の方向に働かせてしまう「戦争」。その痕跡を目の当たりにし、言葉を失うほどショックを受けた。

３月20日、ワルシャワ旧市街をそぞろ歩き。ポーランドはどの町を歩いても風情があり楽しい。しかしワルシャワの歴史地区は特別だ。第二次世界大戦時ナチスドイツの爆撃を受け、街の８割が廃墟となった。戦後、住民が復興を誓って再建したのは、時代に即した新しい便利な街ではなく、昔ながらの古い街並みだった。過去の資料を元に「壁のひび１本に至るまで」忠実に、それもほぼ市民のボランティアの力で。1980年、「破壊からの復元および維持への人々の営み」が評価され、世界文化遺産に登録された。解説はさておき、街を歩いてみての感想。慣れ親しんだ街を取り戻そうと奮闘したワルシャワ市民の熱意と、街への愛情が伝わってきた。彼らが残したかったもの。それは「記憶」なのだ。古く新しく美しい街。弾き語りのバイオリンの音が溶け込み、若いカップルも老夫婦も自然と手を取り合う街。どうか1000年後も同じ光景が見られますように。

アウシュヴィッツ・ビルケナウ収容所

市場 in 遺跡。売り場面積より大切なものがある。

とある公園で建物の修復中。建物の外観に見えるのは、実は工事の足場を覆うカバー。ここまでやるか？！

広場をはさんでワルシャワ歴史地区を見る。狭い通りが多いのに、圧迫感がないのは近くに広場があるせいか。

高橋 朋子　Tomoko Takahashi

1974　宮崎県生まれ
1992　宮城崎県立都城泉ヶ丘高等学校卒業
1997　看護学校卒業後、保健師資格取得
2004　青年海外協力隊にてシリアに派遣
2009　東京大学大学院医学系研究科で保健学修士取得
2010　JICA の母子保健プロジェクトでアフガニスタン、保健医療人材育成プロジェクトでベトナムに派遣
2012　工学院大学工学部二部建築学科入学
2014　任期付被災地復興支援職員として宮城県塩釜保健所に勤務（休学中）
将来の夢　子供も高齢者もわくわくするような街づくり

NICHE PASSPORT

人の活動のリアルを注視するベトナム・タイ

加藤 光貴

バイクを締め出し、低い建物が並ぶ旧市街地のナイトマーケット（ハノイ）

祠が隠れた２本の絡みあった大木の下で休息、語り合う（アユタヤ）

建築やマチの個性とは

日本の一般的なマチと言えば、全体の個性をつくりきれずに今に至っている。しかし、東京のマチは、地域ごとに個性を確立しているのもまた事実である。おそらくその違いは、人の個性が要因となっているのだろう。僕は、建築やマチの個性に由来する「人の活動」に興味がある。そこで旅の舞台を、日本のように古きものと新しきものが混在し、マチの全貌や個性を把握しづらいベトナムとタイに決定した。人々の活動に焦点を当てながら、旅の記録を紹介していく。

混沌の中の人の活動

ベトナムの首都ハノイの歩道は、駐車されたバイクがずらりと占領している。駐車のない場所では人が滞留し、食事や雑談を続けている。露店や飲食店がずうずうしく感じるほど賑わいを拡大させていた。経済都市ホーチミンでは、ゆとりある歩道が整備されている。建物から大きく伸びた日よけは常にお店と連動していた。タイの首都バンコクでは、大きな建物の足元の通りに食べ物の屋台やお祈りの場所が点在していた。これらの混沌を総じて言いたいことがある。それは、小さいところに現地の人々が目的もなく自然と集まっていることではなく、椅子とテーブルの小ささが親密さを増幅させていたことでもない。そこを取り仕切っていた存在が、常におばちゃんたちであったことが印象的だった。

風土の中の人の活動

ベトナムのハロンでは、日本のバブル期さながらの開発が進んでいる。石灰質の島々等のポテンシャルはうなずける。真珠の養殖や蝦、蟹、貝が有名で、海との強いつながりから生計を立てていた。ホイアンは、かつて貿易が盛んだった地域であり、今は観光地としての人気が高まっている。小舟に乗る初老の女性に捕まり、小一時間見せられたのは、木船の製造の様子である。多くの男がそこで働いていた。アユタヤでは、崩壊したままの遺跡群や伝統建築を見ることが出来る。夜になると町中の犬に追いかけられたが、犬は古くからの守り神と言われ、像まである。かつて追われたであろう人の気持ちがわかった。ダムヌンサドゥアックの水上マーケットでは、水路と生活が密着している。しかし、今では水路を道として利用するのは観光が主であった。総じてこれらの風土には、スポットの当たった部分と当たらない部分との連携不足にやりきれなさを感じた。

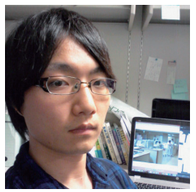
海賊船のように海産物を売りに来た船に乗っていた水上生活の子供たち（ハロン）

10泊11日のマチ歩きを通して

小さなマチで人の活動を見る余裕があまりなかったことに悔いは残るが、２か国８つの地域を「歩いて、人を見尽くした11日」であったことには満足している。今回見てきた「人の活動」が作り出す風景は、建築において、多くは語られない部分である。すべての街において同じ風景はなかった。また、11日間も海外に身を置き、下手くそな英語と身振り手振りのコミュニケーションで、生活ができた事実は変な自信になった。文末ではあるが、華やかさのない写真の選択に対する謝罪と、この渡航の機会を頂いたことに対する感謝を示す。

小さな店舗には従業員だけが利用する昼寝のための空間（ホーチミン）

大きな庇、水上ゆえの細い柱、１階が浮く、水路に向いた住宅（ダムヌンサドゥアック）



加藤 光貴　Koki Kato

1993　千葉県生まれ
2011　千葉県立千葉南高等学校 卒業
　　工学院大学建築学部建築総合学科 入学
2015　工学院大学建築学部建築学科（筧研究室）卒業
2016　工学院大学大学院工学研究科建築学専攻（筧研究室）
将来の夢　医療・福祉に関わる建築設計の仕事に就きたい。

建築の原点「強」「用」「美」

朱 健靚

ライトアップされたクリルパブリッジ

近くで見たオペラハウス

建築の原点

古代ローマの建築家ウィトルウィウスは著書の中でこう述べている。「これら（の建築物）は強さ、使いやすさ、美の理が保たれるように造られるべきである」

これは「強」「用」「美」の三要素が揃ってはじめて成立するという意味である。三要素の説を建築の原点と考え、この原点を再認識することが今回の目的だった。私が所属する研究室は「強」（建築の構造）を研究している。構造設計が最も難しい建造物である橋や大空間建築を見るため、川都市や港都市を多く持つオーストラリアを旅先に選んだ。

強いからこそ美しい

オーストラリア東部の都市ブリスベンでは、南太平洋から流れるブリスベン川によって都市が北と南に分かれており双方を繋ぐ15の橋が市内に架けられている。都市の中心部にあるクリルパブリッジは張力と圧縮力によって物体を統合する、テンセグリティ構造で作られたものである。一見無秩序に配置された柱とワイヤーには、実際には目に見えないバランスの取れた力が働いている。そこから生まれるシナジー効果によって、橋自体は軽量ながら、非常に強い構造である。

挑戦するゆえ進歩する

ブリスベンから800キロ、南半球を代表する金融都市シドニーに行った。ジャクソン湾を架けるハーバーブリッジと、湾内に突き出てた岬に位置するオペラハウスの調査が主な目的だった。世界で最も有名な橋であるハーバーブリッジの上には歩道がある。橋を渡りながら眺めるジャクソン湾は最高にきれいだった。橋の両端には高さ100m近い石造りの支柱がそそり立ち、鉄のアーチを支えていた。また、塔の内部にはブリッジの博物館もあった。内部には、1923年の着工から1932年の完成まで、不可能とも言われた建物を建設する辛さと数々の問題を克服するための工夫が展示してあった。建設技術の進歩と諦めず難題に立ち向かう勇気に感心した。学生の私にとっては良い勉強になった。

困難を乗り越えてよい建築に

そこから徒歩10分ほどでオペラハウスに着いた。遠くからは白く見えるが、外装には太陽光の反射を利用するためのタイルが貼ってある。当時無名だった建築家ヨーン・ウツソンは貝殻を思わせるシドニーオペラハウスを作った。実際に近くで見ると無情にも時代を感じさせるシミやひびがコンクリートの表面に浮かんでいた。なぜきれいに塗装しないのかと思ったが、そのおかげで建設時に構造体であるコンクリート同士を繋いだワイヤを通す穴が良く見えた。実は当時オペラハウスの建設に関して多くの批判が集まった。その原因は、あまりにも独創的な形状から構造設計が非常に困難になり、工期が大幅に遅れ、最終的な費用が予算の４倍にも膨れたことにあった。なんだか工期と予算問題に悩まされている2020年東京オリンピックスタジアムと似ているような気がした。41年前に竣工したシドニーオペラハウスは現在、世界で最も新しい世界遺産である。これから建設される新しい東京オリンピックスタジアムも、いくつもの困難を乗り越え、世界に知られ評価されることだろう。

ハーバーブリッジとオペラハウス

石造りのハーバーブリッジ支柱

貝殻コンクリートのシミと穴

朱 健靚　Jianliang Zhu

1988　中国上海生まれ
2010　東京都私立板橋有徳高等高校 卒業
　　工学院大学工学部建築学科建築コース 入学
2014　工学院大学工学部建築学科建築コース卒業（山下哲郎研究室）
2016　工学院大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了（山下哲郎研究室）
将来の夢　世界レベルの建築物を手掛けたい

ハイライン

NICHE PASSPORT

新陳代謝する NY

鈴木 翼

グッゲンハイム美術館

SOHO

ブルックリンのクリエイター達の店舗

はじめに

東京と地方の暮らし方はまったく違う。私は大学の為に上京し、良い部分も悪い部分も含めて東京と地方の違いに何度も驚かされた。東京での生活は地元の静岡県では出来ないし、その逆も然りである。私は修士１年の２ヶ月間、アメリカのシアトルに留学していた。アメリカの地方都市であるシアトルの生活を基にして、都心のニューヨークの生活を知ることで、東京と地方の様にアメリカの文化の差を理解できるのではないかと思い、今回ニューヨークを目的地に選択した。

ニューヨークの街

ニューヨークの街は、東京と似ている様に感じた。高密度に開発され、高層ビル群の為なのか閉鎖的で流動的だ。シアトルのような穏やかさはニューヨークにはない。

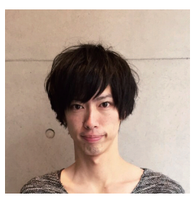
シアトルでは、街に開いたカフェ文化や都市の緑地があり、オープンスペースの使われ方や街での過ごし方が日本に比べて非常に豊かであると感じた。公共空間の質が高く、多様的なアクティビティが見え、各々が好きに街を楽しんでいた。

しかし、ニューヨークの街では緑地も多く、公共家具も多く存在するが、うまく機能していないように感じた。シアトルもニューヨークもグリッドパターンの街区の特異点が公共空間になっているが、ニューヨークでは高層ビルの足元で影になってしまい、交通量の多い道路に囲まれている場合が多いことから、あまり留まりたくない空間になってしまっているのではないかと感じた。ハイラインはそんな中に出来たため、爆発的人気を誇っているのかもしれない。

アートシーン

ニューヨークで過ごしてみて、芸術に対する人々の関心が高いことに驚いた。街の至るところにアートが存在し、ギャラリーも多く、美術館には無料開放日があり、入場には行列ができていた。また、店舗でプロダクトのデザイナーが紹介されていたり、ブルックリンのデザイナーのモノが様々な場で地元産として販売されていたりした。それだけではなく、ニューヨークの街自体にも芸術家やデザイナー達が深く関わり、街を新陳代謝させていた。それは、ジェントリフィケーションと呼ばれていて、衰退して地価が安くなった地域に、活動的な若者達が住むことで活性化されていく現象である。その代表的地区であるSOHOは、1960年頃工場や倉庫街だった場所にお金のないデザイナーや芸術家が住み着くことで活性化され、ギャラリーやレストランができ、その次に高級ブランドが建ち並ぶ場所へと変化を遂げた街である。しかし、地価の高騰化によってお金のない芸術家達は住めなくなり、新たな場所へと移り住む。そしてまたそこでジェントリフィケーションが発生していくという流れがある。SOHOの次はトライベッカやミートパッキング地区に移り、今ではブルックリンのダンボやウィリアムスバーク地区へと移っている。街が数年単位でどんどん変化し、循環しているのだ。常に新しいものが生まれる場というのは刺激的であり、そんなニューヨークに人々は魅了され集まるのだと感じた。

ウィリアムズバーグの路上アート



鈴木 翼　Tsubasa Suzuki

1992　静岡県生まれ
2010　静岡県立浜北西高等学校 卒業
　　工学院大学工学部建築学科建築学コース 入学
2014　工学院大学工学部建築学科建築学コース（西森研究室）卒業
2016　工学院大学大学院工学研究科建築学専攻（西森研究室）
将来の夢　街をよりおもしろくする建築をつくりたい。

NICHE LETTER

木製眼鏡職人

神田 武蔵

後藤先生（槐のボストン）と、私（楢のラウンド）
後藤研究室では地方へ調査に行っては地酒を買ってくる。

欅（ケヤキ）・神代欅（ジンダイケヤキ）・楓（カエデ）寄木のラウンド

槐（エンジュ）のボストン

幼いころ小金井公園や学芸大学の木々に親しんだせいだろう。木が好きだった。工学院大学では迷わず日本建築を専門とする後藤研究室に進んだ。後藤研では著名な建築というよりは、地方の人々が今も暮らす民家や町並を調査研究した。屋根裏まで入った実測調査、街道沿いの町を端から端までプロット調査したことなどは今でも忘れることはできない。卒業後、後藤先生の紹介で木材市場の会社へ就職した。任されたのはプレカット設計、構造設計の業務だった。木に触れる仕事ではなかったけれど、在来軸組工法について深く考察でき、何百棟と関わった。

しかし自分に嘘はつけなくなってきた。一度しかない人生のことを考えると趣味の範囲でやっていたモノづくりに挑戦してみたくなった。会社を辞め1年バイトして、飛騨高山にある森林たくみ塾の門をたたいた。そこでは初日から商品を製作した。生半可な気持ちでは続けられない。同期生も２年間で３分の１に減った。ここでは自分に向き合うことができた。卒塾したらすぐに独立しようと腹を決めていたので、何を自分の強みにするか試行錯誤の日々だった。かけていたプラスチック眼鏡が壊れたので、自由時間などを使い２ヶ月ほどかけて木で眼鏡を作ってみた。課題は残ったが、掛け心地が良くインパクトがあった。ファッションは好きだったので、木のファッションというアイデアがあった。眼鏡なら大がかりな機械は必要ない。そうはいってもいざ独立となると貯金はほとんどなかった。生活の保障もない。家族もいる。しかし我儘だと思いながらも自分のモノづくりがやりたかった。展示会に出展してだんだん眼鏡を買ってもらうことはできたが、生活が成り立つレベルではない。それは今も変わらない。私が家事・育児を担い、妻に生活費を賄ってもらう。妻には一生頭が上がらないだろう。

槐（エンジュ）・神代欅（ジンダイケヤキ）・栴檀（センダン）寄木のウェリントンと皮のケース

桑（クワ）のボストン

欅（ケヤキ）のウェリントン

後藤研の15周年祝賀会で後藤治先生に久しぶりにお会いして今までの経緯を話したところ、眼鏡を作ってくれということになった。それだけでなく鈴木先生や他の先生を紹介していただき、眼鏡を作ることができた。先生方には感謝の言葉も無い。

眼鏡を製作するときはお客様との対話からスタートする。形や樹種、サイズは粗方決めているが、お客様にとってはそれがすべてではない。好みの形や自分が知らなかった木の依頼もあり、サイズも人それぞれ。そこから新しいものができる。それがとても楽しい。現在は箱根寄木細工職人、イラストレーター、フォトグラファー、腕時計職人等、様々なジャンルのクリエーターの方々とのコラボレーションも進めている。日本には漆の文化があるので漆塗りの眼鏡にも挑戦してみたい。多様な木があるこの国では可能な限り国産の木で作ることにこだわっているが、ひとつ夢がある。世界の国を巡ってその土地の木で眼鏡を作ることだ。特にブラジルには日本と同様に魅力的な木が多くある。地球の裏側で63mokkoの眼鏡をかけてもらう日はくるのだろうか。

昭和 40 年代の文化住宅を改装したアトリエ兼ギャラリー

63mokko アトリエ＆ギャラリー
〒 190-0001　東京都立川市若葉町 2-1-10

木製眼鏡フレーム　￥43,200（税込）～
※レンズは別途料金

神田 武蔵　Musashi Kanda

1982　東京都小金井市生まれ
2001　埼玉県立所沢北高等学校卒業
2005　工学院大学工学部建築学科卒業（後藤研究室）
　　丸宇木材市売株式会社入社
2010　同社退社
2011　森林たくみ塾入塾、２年間の木工修行
2013　63mokko 設立

武藤章先生のご家族に聞く

2015年10月にみなさまに愛されてきた工学院大学八王子図書館が解体されました。建築学部同窓会では故武藤章先生が設計された図書館の保存を強く訴えてきましたが、様々な理由によって解体を阻止できない現実を直視し、改めて建築の記録と保存の方法を模索する中で『建築を保存する本』の発行を決意しました。（2015年12月15日発行、新刊書紹介参照）

2015年7月9日に武藤邸を訪ねました。武藤先生は1977年の「キュンティラの灯」という随筆に「やたらに変身がしたくて、どうしたらそれが出来るかを考えた挙句、結婚すればよいのではないか、また、外国へ勉強に行ってみたらよいのではないか、それならば両方一時にやってしまおう」と記しています。奥様の武藤敦子さんと長女のかおりさんにその真意を尋ねると、敦子さんは武藤先生の生い立ちから話し始めました。

武藤 敦子

1933年　東京都生まれ
1952年　日本女子大学付属高等学校卒業
1956年　日本女子大学家政学部生活芸術科住居卒業
1956年-58年　鹿島建設株式会社設計部勤務
1958年-60年　工学院大学勤務
1960年-61年　吉村順三設計事務所勤務

武藤 かおり

1964年　東京都生まれ
1983年　私立雙葉高等学校卒業
1988年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1988年-93年　株式会社アプル総合計画事務所勤務
1993年-98年　ヴェネツィア建築大学に留学
1998年-　株式会社武藤建築研究室主宰

武藤は鹿島建設の経理部長の仙三郎と狂言師6世野村万蔵の娘の利との間に五男として生まれました。兄弟は外務省に勤めていた15歳上の長男、戦死した次男、幼少の時に病死した三男、画家の四男、紅一点の妹でした。終戦後に父が胃潰瘍で会社を辞めました。通貨切替になり、働き手のない家庭では闇商売の人以外皆が苦労する時代でした。武藤は自分に厳しく人に寛大な人でした。

日比谷高校在学中、母が父母会に行くといつも先生に「申し分ない成績です」といわれたそうです。ラグビー部に所属し、部活を楽しんでおりました。経済的な事情からお弁当を持っていけないこともあったようですが、昼食時間は廊下に出ていたそうです。昼食抜きでも外堀一周のマラソン大会では一位になり、先生に「根性がある」と褒められたそうです。

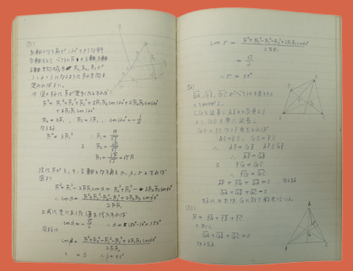
高校時代は優秀な良い友人に恵まれ、哲学、文学などを語り合い、お互いから学び合い楽しく有意義な日々を過ごしていました。クラスの半数位が東大に進学したそうです。ラグビー部の一年後輩の大宅歩さん（大宅壮一氏の長男）に勉強を教えながら、お母様の大宅昌子さんと詩のやりとりをしておりました。その時の物は引っ越しの際に捨ててしまい残っておらず残念です。勉強を教えるお礼に図書券やコーヒー代を頂き、大好きな本を買うことができるのも楽しみだったようです。残念ながら歩さんはラグビーボールが頭に当たったのが原因で早世されました。武藤の他界後、大宅昌子さんから「武藤さんは日比谷高校きっての数学の秀才でいらっしゃいました」というお手紙と共に武藤が歩さんに作ってさしあげた数学の問題の解答集を送ってくださいました。当時はアンチョコが出回っておらず、貴重なものだったようです。

高校三年の夏休みまで地図の製作のアルバイトもしていたそうです。文学少年だった武藤は文学の道に進みたかったようですが、文学で生計をたてていくことは難しいとあきらめ、得意の物理に進むことも考えましたが、結局は好きだった詩人の立原道造の影響で建築の道を選んだようです。高校時代の親友の方が「武藤君は物理に進むとばかり思っていたが、いつの間にかグレて文学に走り、とどのつまりが建築に納まった」とおっしゃっていました。

大学進学後は、建築学科の授業にあまり魅力を感じられず、アルバイトに費やす時間が多かったようです。

天野太郎先生の義弟が大学の同級生だった御縁で、天野先生と知り合い、天野先生の甥の家庭教師をしました。

武藤先生が大宅歩さんのために作ったアンチョコ



2か月で辞めた東京大学大学院の、藤島先生（後列右）、奥平先生（後列中央）、武藤先生（前列左）

武藤章先生（左）、天野太郎先生（中央）、樋口清先生（右）

卒論ではフランク・ロイド・ライトの建築について書いています。学部卒業後、大学院に籍をおきましたが、2か月で退学し、遠藤新氏の新建創に入社しました。

その後工学院大学で天野先生の助手、専任講師となり、樋口先生と天野先生からライトをはじめ様々なことを学びました。夜中まで設計の仕事に没頭したり、建築を論じ合ったりし、この頃から新建築に建築論を度々発表していました。「天野先生は奥さんといるより武藤さんといる時間の方が長い」と周りの方から言われていたようです。

私は日本女子大学家政学部生活芸術科住居を卒業後、親友と共に鹿島建設設計部に初めての女性技術者として2年間勤務しました。その後工学院大学建築学科に2年間お世話になりました。堀越先生の研究室の雑用、樋口先生の研究室の図書の整理などをしながら天野先生の住宅の設計のお手伝いをし、建築の勉強をさせて頂きました。天野先生には大変お世話になり感謝いたしております。

武藤と出会い結婚することになり、工学院大学を退職し、天野太郎先生の紹介で吉村順三先生の事務所に嘱託として勤めました。

フィンランドに行くまでの短い期間でしたが、東山魁夷先生の御宅の画庫などを担当させて頂きました。その頃、武藤はアルヴァ・アールト先生に手紙を書き、フィンランドのアトリエ・アルヴァ・アールトで働くことになりました。

1960年10月10日に結婚し、新婚旅行を兼ねて京都や関西を2週間ほど訪ね、武藤は日本の建築をスライドに撮っていました。

その旅行から帰ってすぐ、10月に武藤は一人でアメリカを経由してフィンランドに旅立ちました。武藤には私学共済や学校から補助金が出ていました。円が1ドル360円の時代で、日本から円を持ち出すことが出来ない時代でした。海外で収入を得られる人だけが海外に行くことができました。私は日銀や大蔵省に何度も通い、世界周遊の航空券を買って、次の年の6月に武藤のもとに参りました。

私が初めて乗った日本航空のジェット機は空いていて、アンカレッジ経由でデンマークのコペンハーゲン国際空港に行き、そこでスカンジナビア航空のプロペラ機に乗り換え、ヘルシンキへ向かいました。ヘルシンキは軽井沢を思わせるような田舎の小さな飛行場でした。武藤と、武藤の日比谷高校の同級生で東京大学の生物の研究者の畑中氏と、そのドイツ人の奥さんの3人が迎えに来てくれました。私の預けたカバンが見つからなくて、スチュワーデスと話していたら、遠くから見ていた武藤に「英語が喋れないのに何を話していたの」と言われたのを覚えています。

私が到着した翌日は夏至の日でした。フィンランドでは長い冬が明け明るい白夜へと向かう日で盛大なお祭りが催されます。アールトの事務所でのパーティーに参加するように歓迎してくださったのですが、私は生憎長時間のフライトの疲れと寒さが重なって体調が悪く、参加することができませんでした。翌日、私は着物を着て、アルヴァ・アールト先生の自邸にご挨拶に伺い、先生が握手をしてくださったのを覚えています。暖かく柔らかい手でした。

武藤は最初一人で小さな住まいに暮らしていました。私が来てからはオリンピックの選手村だったマンションで3か月暮らしました。LAPIRAHA DENKATU 3A HELSINKIと覚えています。食べ物は冬が長いせいか生野菜がほとんどありませんでした。冷凍の酢漬けの魚、マッカラという直径4cm位のソーセージが多かったです。パンは黒パンでした。皆さんお酒をたくさん召し上がっていました。寒い国だからお酒を飲まないと体が温まらないのでしょう。アールト先生はよくウィスキーやウォッカを飲んでいらっしゃったようです。アールト先生設計の建物はどれも素晴らしく感動するも

フィンランドに行く前の集合写真。（後列左から）鈴木さん、福田基子さん（旧姓：根津）、吉原先生、天野先生、樋口先生。武藤夫妻（前列）

工学院大学にて。天野太郎先生（左）、山下司先生（奥）、武藤先生（右）

フィンランディアホールが竣工した時の食事会。武藤先生（左から二番目）、アールト（奥の中央）、秘書（その右）、フェデリコ（前列右から2番目）、レッペネン（前列左から3番目）

フィンランディアホールが竣工した時の食事会。アールト（中央）と武藤先生（右）

アールトの事務所に勤めている時に、アールトからクリスマスに贈られた花瓶。

のばかりでした。イマトラのヴォクセンニスカの教会を見学したのが最初で夢の国にでも来たように感激しました。年月を経て今では老朽化していますが、当時は真っ青な芝生が一面に敷かれ明るかったのが印象的でした。

武藤はアトリエでたくさんの友達ができ、時折日本建築のスライド上映会を催していました。アメリカ人、スイス人、イタリア人、フランス人などアトリエに留学していた人達が集まりました。アトリエで働いているフィンランド人女性の友人は、サウナに良く呼んで下さいました。サウナに入るとやはり気持ちがいいものです。本当はサウナのあと湖に飛び込むのですが、残念ながら私は泳げないものですから水を浴びて白樺で体を叩く位でした。

夏休みには、アトリエで親友になったイタリア人のフェデリコ・マルコーニのフォルクスワーゲンにフィンランド人のエリックと私たち夫婦の４人で乗って、フィンランド各地のアールトの建物をほとんど全て見学して回りました。教会、文化会館、コンサートホール、市庁舎、サナトリウム、別荘、どれも素晴らしい作品でしたが、私はアールトの別荘とマイレア邸が特に好きでした。

ツタが真っ赤に紅葉し寒くなってきた９月、別れを惜しみながら、アールト事務所の勤めが終わりました。

フィンランドからスウェーデン、ノルウェー、デンマーク、ドイツ、オランダ、フランス、イタリア、ギリシャへと飛行機で１か月ほど視察して回りました。

1961年10月から翌年５月までイタリアに滞在し、武藤はジーノ・ヴァッレの事務所で働きました。

アールトのアトリエで親友になったフェデリコはその事務所から留学していたのです。フェデリコは武藤と誕生日が一緒で、私たちにとても親切にしてくださいました。彼の留守の間、彼の生家に無償で住ませていただきました。ジーノ・ヴァッレはアメリカに留学経験のある、ウディネで有名な建築家で、グレゴリー・ペックに似た容姿も立派な方でした。武藤はヴァッレの事務所でも夜遅くまでスケッチしていました。

武藤はフィンランド語を事前に勉強していったのですが、イタリア語では建築の専門用語が思うように通じなかったようでした。「イタリアにはフィンランドとは違う良さがあり素晴らしい」と、ここでも武藤はたくさんの建物をスライドに撮っていました。私的な写真はほとんどありません。私はイタリアにいる間に長男を身ごもり、体調が悪くなり入院しました。武藤も病院に泊まり込んで、病院から事務所に通勤していました。

日本に帰国して１年ほどは私の実家で暮らし、その後近くの木造のアパートに引っ越しました。その間の1963年に武藤章研究室一級建築士事務所を設立しました。６畳と３畳と４畳半のダイニング、トイレとお風呂という間取りのアパートで、子供が２人になり、４人家族で４年間暮らしました。

次に現在の家から50mほど離れたところにある12坪ほどの木造の小さな家を借り７年ほど住みました。武藤は雑誌社から原稿を頼まれることが多く、食事を片付けた後の食卓で執筆していました。1969年に鹿島出版会より刊行された武藤の著書『アルヴァ・アアルト』（SD選書）は現在13版まで出版されています。

家が狭かったため、毎年お正月は息抜きに、富士山を眺められる箱根仙石原のホテルにて家族で過ごしました。

1974年に現在も私たちの住んでいる自邸を建設しました。建設当時は敷地の周りが空き地になっており、読売新聞に「荒地に建つ生命力溢れる建築の家」と評した記事と写真が掲載されました。

1985年１月に武藤に胃癌がみつかり、３月に日比谷高校時代の親友の長澤俊彦先生がいらっしゃる杏林大学病院で胃の摘出手術をしました。２週間で退院し、大学の授業、八王子の校舎の現場、新宿の超高層キャンパスの打ち合わせなど多忙な生活を送っておりました。

食事の量が減るなど手術の影響はあるものの、体調は徐々に回復しているかのように見えていましが、８月に再発し再入院いたしました。

再入院後は口からは水分しかとることができず、点滴で過ごしました。体は痩せていき、かなり苦しそうでしたが弱音を吐いたことはありませんでした。何よりも本の好きな人だったので娘の買ってきてくれた読書スタンドを取り付け、最初のうちは本を読んでいました。司馬遼太郎の『竜馬がゆく』が武藤の読んだ最後の本となりました。

時折、娘のかおりが交代してくれましたがほとんど毎日私が付き添いました。武藤の妹や義姉も一生懸命看病してくれました。私が疲れてベッドの脇でうつぶせていると武藤が私の頭をなぜてくれたことがあります。自分がとても苦しい状況でもそんな風に人を思いやってくれる気持ちに涙が溢れたことが今でも脳裏に焼き付いています。自分がどんなに苦しくても他人の痛みや苦しみを思いやることのできる人でした。

最期が近づき医師から「相当な痛みだと思いますが、武藤さんだから弱音も吐かず、頑張っていらっしゃるんですよ」と言われたことを思い出すと、可愛そうなことをしたと胸が痛みます。1985年10月12日、武藤は永眠しました。

かおりさんは語ります。

私も父と一緒で文学も物理も好きでどちらの方向にも行きたかったのです。でも最終的に建築を選び、早稲田大学建築学科に入りました。父は私が大学２年生の時に他界してしまい、ほとんど建築について話したことがありません。ただ今でも印象に残っているのは、早稲田での２年の９月に出た課題に対するコメントです。敷地など好きな設定で住宅を作る課題で、私は海の見える家というテーマで設計しようとしたら、友達に「なんか女の子っぽいね」とからかわれてしまいました。その事を入院中の父に話したら、「いいんだよ。女の子なんだから女の子らしくて」と言われました。自分らしいものをつくればよいのだということを言ってくれたのだと思います。課題のエスキスを見せる間もなく10月に父は亡くなりました。

父はどんな人かと一言で言うとすると「優しくて厳しくて温かくて強い人」だと思います。

敦子さんは続けます。

武藤は皆さんを引き立て、人のいいところを見る人でした。亡くなった後、全然知らない人が家にいらして、「僕は武藤先生のお陰で大学を卒業することが出来た。本当は辞めようと思って学校に行ったら、武藤先生が『ピカソだって最初から才能があったわけじゃない』と言った」と話してくれました。武藤は苦労して育ったので、人の心の痛みがわかるのでしょうね。武藤はよく夜中にバーボンのオン・ザ・ロックを飲みながら原稿を書いていました。遺稿のタイトルは「法隆寺論争」です。書きかけで全部が完成していません。鹿島出版から頼まれており、武藤は夜中の３時頃までずっとSD選書の原稿用紙に書いていました。歴史を現代の視点で斬る本でした。武藤は三鷹の杏林病院で胃がんを切る手術して、病気が直ってからもずっと書いていました。今の医療ならまだ生きていられたのではないかと思います。2007年に家庭画報にこの家が掲載されました。

武藤のお墓は娘のかおりが設計しました。本家のお墓が小さかったので、小平霊園の墓所を購入し、御影石で作りました。お墓の下は鉄筋で作り、人が入れる構成です。手前の石の右側に「無限の時間に」と刻んでいます。

インタビュー：

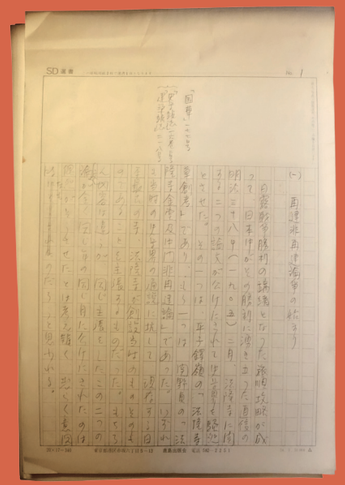
谷口宗彦、鈴木敏彦、杉原有紀、市村友一、岡部翔平

『建築を保存する本01 工学院大学八王子図書館／武藤章』より転載

ヘルシンキの日本大使館にて。 アールト事務所を辞め、イタリアに移動する前に大使公邸に 10 日間滞在した。現地ではイサムノグチの提灯が人気だった。

エリッサ・アールト
と武藤先生

遺稿となった『法隆寺論争』の未完の原稿。



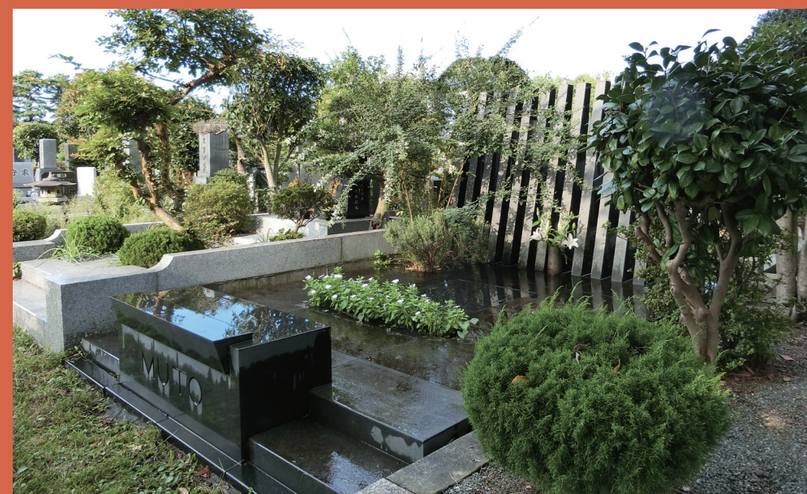
ウディネにて隣に住んでいた小学校の先生のご家族と市内観光。 左から武藤先生と敦子さん

1994 年 6 月、武藤邸にて食事会。
右からフェデリコ、エリック、その奥様、
武藤かおりさん、イタリアの建築家

武藤章

1931年　東京都生まれ
1950年　東京都立日比谷高校卒業
1954年　東京大学工学部建築学科卒業、株式会社新建創入社
1956年　工学院大学建築学科助手（天野太郎研究室）
1960-61年　フィンランド　アルヴァ・アールトに師事
1961-62年　イタリア　ジーノ・ヴァッレ設計事務所
1963年　武藤章研究室一級建築士事務所設立
1964年　工学院大学助教授
1974年　工学院大学教授
1985年　10月12逝去

武藤先生が眠る小平霊園のお墓。かおりさんが設計した。



MUTOH

MUTOHなら安心です。

あらゆる設計現場で、高い信頼性と
納入実績を誇るMUTOHの設計製図ツールは、
教育の現場でも活躍してくれます。

アイディアを
かたちに!

３Dプリンタ出力サービス

建築模型や家具模型など、３Ｄプリンタを使って造形します。
◆３Dプリンタをお持ちでない方
◆多忙で自作できない方
◆お試しに作ってみたい方
そのような方々にオススメです。

LINER BOARD

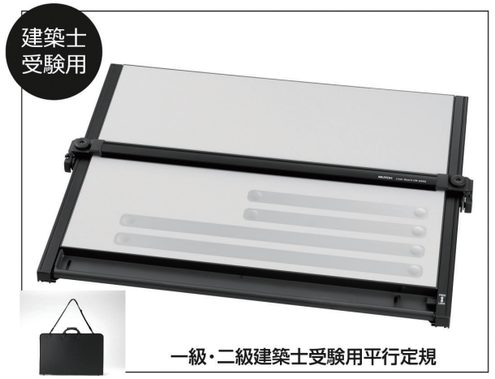
UM-06N7

最大適応製図用紙サイズ：Ａ２
製図板サイズ：Ａ２（451ｘ604mm）
ゆとりの製図範囲と高精度・高操作性のコンパクトな軽量型平行定規。

精度は、設計製図機械「ドラフター」譲りで万全です。随所に、図面を汚さない「スケールフローティング機構」や厚紙にも対応可能な「ダブルヒンジ機構」など、基本性能にも妥協を許さない親切設計。

ＭＵＴＯＨならではのノウハウを凝縮したＡ２サイズ平行定規です。

建築士
受験用



一級・二級建築士受験用平行定規

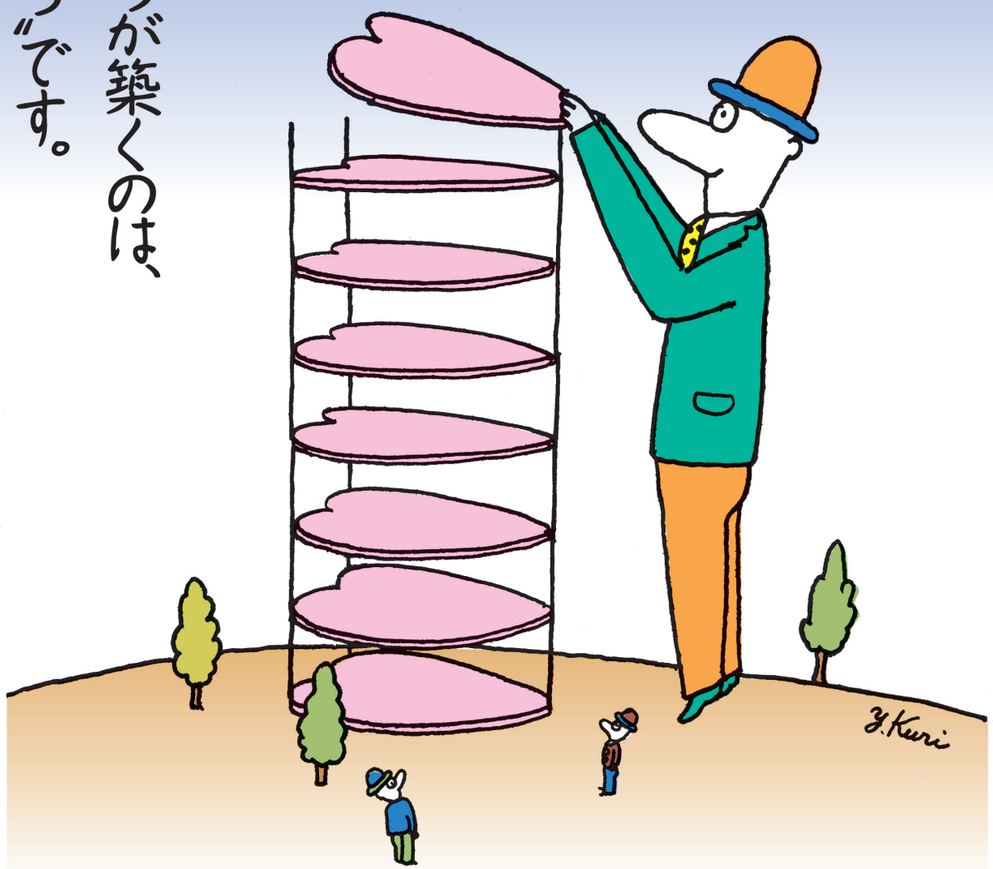
株式会社 ムトー エンジニアリング 東京都世田谷区池尻3-1-3 〒154-8560 TEL(03)6758-7130 FAX(03)6758-7139

フジタと描く、未来のカタチ。

私たちフジタは、お客様や社会が想い描いている未来を想像し、
その実現に向かって、共にカタチにしていきます。
土木・建築の枠を超えて、まちづくりをサポートし、
そこに暮らす人々にとって本当に価値あるものを創り続けることが
私たちの使命だと考えます。
大和ハウスグループの一員として、
広い視野を持ち、グローバルに展開してきたフジタ。
たゆまず進む私たちに、どうぞご期待ください。

FUJITA
Daiwa House Group®

私たちが築くのは、
"こころ"です。



今、人は地球について考えています。
そして、自然のことを想っています。
地球があって、緑にあふれ、人々が生活する。
私たちはそんな基本的なことから考えたい。
私たちのふるさと・地球にやさしい技術の確立。
熊谷組の変わらぬテーマです。

——人と地球の未来を考える——
KUMAGAI 熊谷組

HITACHI
Inspire the Next

HUMAN FRIENDLY

for Hitachi Elevators / Escalators

わたしは、あなたを乗せている。
昨日も、今日も。きっと、明日も。

わたしは、いつも夢をみる。

新しいデザインで、
新しいシステムで、
新しい心遣いで、
あなたにとって、
新鮮な空気のような
存在になりたいと。

あなたを思いやること、
心地よくすること。

HUMAN FRIENDLY

Hitachi
Elevators / Escalators

株式会社日立ビルシステム
〒101-8941　東京都千代田区神田淡路町二丁目 101 番地 ワテラスタワー　03-3295-1211

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

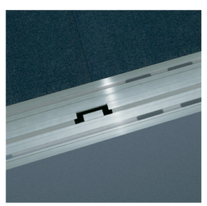
美しく彩られた安心

先進の環境性能を誇る、東芝マシンルームレスエレベーター SPACEL-GR II（スペーセル）が、
さらなる安全性・安心感の向上と快適性を手に入れました。

新登場

安全性・安心感の向上

しきい間すきまレス



業界初※

乗り降りの際、エレベーターと建物にあるすきまをふさぎました。

※2015年12月現在 弊社調べ

快適性・意匠性の向上

ミラーサイネージ

ミラーの向こう側から映像が浮かびあがっては消えていく、サプライズを呼び起こす演出などエレベーターのかご室を美しく彩ります。

消費電力最大50%削減※

LED天井照明

LED照明ならではの省エネルギー・長寿命・水銀フリーで環境にも配慮しています。

※回生電力機能を採用した、乗用15人乗り105m/min（STD-1L天井相当）と従来機種（SPACEL-EX）との比較（弊社調べ）

東芝エレベータ株式会社 東京支社
〒140-0014 東京都品川区大井1-28-1 TEL.03-5718-0364
http://www.toshiba-elevator.co.jp/

伝統と創造

明倫建設

〒169-0072
東京都新宿区大久保 1 丁目 17 番 14 号
TEL 03-5285-5816
FAX 03-5285-5818

業務内容
□建築内外リフォーム工事・設計・長期修繕計画
□各種建築物・工作物の解体工事一式請負・施工
□建築物の移築・曳家及社寺建築・文化財建築の修復・復元工事
□建築物の内外装工事の請負・施工
□建築物に付随する各種設備機器の販売及び取付け工事の請負・施工

構造計算適合性判定のご指名は
建築構造センターへ！！

信　頼

過去14,998件の
判定実績が信頼の証です。

※平成19年8月～
平成27年11月までの判定件数

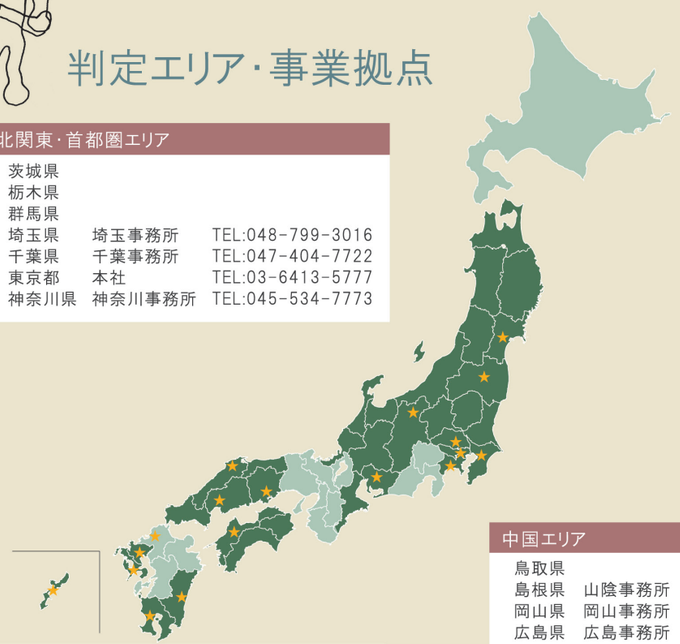
迅　速

的確な審査業務により、
判定日数短縮を図ります。

充　実

35都県の判定が
18事務所で行えます。

判定エリア・事業拠点



北関東・首都圏エリア

茨城県		
栃木県		
群馬県		
埼玉県	埼玉事務所	TEL:048-799-3016
千葉県	千葉事務所	TEL:047-404-7722
東京都	本社	TEL:03-6413-5777
神奈川県	神奈川事務所	TEL:045-534-7773

北海道・東北エリア

青森県		
岩手県		
宮城県	東北事務所	TEL:022-726-5885
秋田県		
山形県		
福島県	福島事務所	TEL:024-921-5777

甲信越・北陸エリア

新潟県		
富山県		
石川県		
福井県		
長野県	長野事務所	TEL:026-217-2311

東海エリア

岐阜県		
愛知県	愛知事務所	TEL:052-253-7733
三重県		

中国エリア

鳥取県		
島根県	山陰事務所	TEL:0852-60-0144
岡山県	岡山事務所	TEL:086-206-3310
広島県	広島事務所	TEL:082-836-4111
山口県		

四国エリア

徳島県		
香川県		
愛媛県	愛媛事務所	TEL:089-913-6555
高知県		

九州・沖縄エリア

	福岡事務所	TEL:092-260-7957
佐賀県	佐賀事務所	TEL:0952-37-7588
長崎県	長崎事務所	TEL:095-829-5222
宮崎県	宮崎事務所	TEL:0985-73-9477
鹿児島県	鹿児島事務所	TEL:099-299-1203
沖縄県	沖縄事務所	TEL:098-878-3501

指定構造計算適合性判定機関

株式会社 建築構造センター

代表取締役社長　田野邉　幸裕（建築学科　昭和44年卒）
取締役　平野　久雄　（建築学科　昭和41年卒）
取締役　鈴木　宏夫　（建築学科　昭和44年卒）
監査役　谷口　宗彦　（建築学科　昭和44年卒）

本社　〒160-0022
東京都新宿区新宿1-8-1
大橋御苑駅ビル6階
TEL:03-6413-5777（代表）
FAX:03-3350-1261
E-mail:kkc-info01@kozocenter.co.jp
URL:http://www.kozocenter.co.jp

1級建築士
学科も製図も
全国
合格者占有率
No.1

平成27年度 1級建築士 学科試験
対面指導の優位性が証明されました!
全国の合格者の2人に1人以上が当学院現役受講生!
全国 合格者占有率 53.7%
他講習利用者＋独学者 / 当学院現役受講生
全国合格者合計4,806名中、当学院現役受講生2,582名
＜平成27年9月9日 現在＞

平成26年度 1級建築士 設計製図試験
41都道府県での開講にもかかわらず（沖縄県を除く）
全国の合格者の2人に1人以上が当学院現役受講生!
全国 合格者占有率 54.8%
他講習利用者＋独学者 / 当学院現役受講生
全国合格者合計3,793名中、当学院現役受講生2,077名
＜平成26年12月18日 現在＞

重要なのは「今」の試験の合格実績！ 当学院の講習システムの良さが証明されました！

平成27年度 2級建築士 設計製図試験
全国 ストレート合格者占有率 40.2%（平成27年度 学科＋設計製図）
全国ストレート合格者合計3,322名中、当学院現役受講生1,335名
＜ 平成27年12月3日 現在 ＞

平成27年度 宅建士本試験
当学院基準達成 現役受講生合格率 78.2%（達成）
出席率・宿題提出率・公開統一模試得点率8割以上達成
現役受講生133名中、合格者104名 ＜ 平成27年12月2日 現在 ＞

平成27年度 1級建築施工管理技術検定 学科試験
当学院基準達成 現役受講生合格率 93.9%（達成）
出席率・宿題提出率8割以上達成
現役受講生718名中、合格者674名 ＜ 平成27年7月24日 現在 ＞

工学院大学 | 平成26年度 1級建築士 設計製図試験 合格者 当学院受講率 53.1%
卒業合格者64名中 34名が当学院の講座を受講して合格しました!!

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数および全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。

平成28年度 目標 合格者占有率

1級建築士試験 ストレート合格者占有率（学科＋製図） 95%
1級建築士学科試験 合格者占有率 90%
最低ライン80%以上 都道府県単位で100%を目指す

2級建築士試験 ストレート合格者占有率（学科＋製図） 70%
2級建築士学科試験 合格者占有率 60%

平成28年度もより多くの合格者を輩出できるよう、スタッフ一丸となってサポートします！

法人サポートサービス　それぞれの企業のニーズに合わせて、各種サービスを実施しています。詳しくは下記までお気軽にお問合せ願います。

各種合格ガイダンス / 模擬試験・社内講習会 / 新卒採用支援
Web学習サービス / 有資格者育成オリジナル / 願書取り寄せサービス

《 開講講座 》
1級建築士／2級建築士／建築設備士／1級建築施工管理技士／2級建築施工管理技士／1級土木施工管理技士／2級土木施工管理技士／宅地建物取引士／インテリアコーディネーター／構造設計1級建築士／設備設計1級建築士

《 法定講習 》
一級・二級建築士定期講習／管理建築士講習／第一種電気工事士定期講習
監理技術者講習／宅建登録講習／宅建登録実務講習

お申し込み・お問い合わせは各校まで　総合資格学院　www.shikaku.co.jp　総合資格　検索

札幌校 TEL.011-219-3511
盛岡校 TEL.019-604-7651
仙台校 TEL.022-217-8421
山形校 TEL.023-615-2911
郡山校 TEL.024-921-0041
水戸校 TEL.029-300-4721
つくば校 TEL.029-860-3771
宇都宮校 TEL.028-614-4881
前橋校 TEL.027-290-2311
高崎校 TEL.027-320-8511
太田校 TEL.0276-47-1051
さいたま校 TEL.048-642-9811
越谷校 TEL.048-990-6971
川越校 TEL.049-291-5211
熊谷校 TEL.048-599-3531
船橋校 TEL.047-425-8941
千葉校 TEL.043-290-7341
成田校 TEL.043-290-7341（千葉校）
柏校 TEL.04-7168-9111
北千住校 TEL.03-5284-3911
新宿校 TEL.03-3340-5671
上野校 TEL.03-3832-7201
池袋校 TEL.03-3982-8211
五反田校 TEL.03-3495-8671
吉祥寺校 TEL.0422-23-6011
立川校 TEL.042-524-7841
町田校 TEL.042-724-3061
横浜校 TEL.045-316-6811
川崎校 TEL.044-850-3411
厚木校 TEL.046-297-0511
藤沢校 TEL.0466-55-2611
新潟校 TEL.025-242-2811
長岡校 TEL.0258-32-0211
長野校 TEL.026-268-0811
甲府校 TEL.055-230-1411
富山校 TEL.076-439-1011
金沢校 TEL.076-237-6811
福井校 TEL.0776-20-2111
岐阜校 TEL.058-277-3701
沼津校 TEL.055-930-2621
静岡校 TEL.054-275-3311
浜松校 TEL.053-456-2211
名古屋校 TEL.052-202-1751
小牧校 TEL.0568-42-1211
岡崎校 TEL.0564-57-8161
豊橋校 TEL.0532-57-0311
津校 TEL.059-213-3211
四日市校 TEL.059-359-0711
草津校 TEL.077-566-6911
京都校 TEL.075-253-0481
梅田校 TEL.06-4709-8111
新大阪校 TEL.06-6101-1911
京橋校 TEL.06-6882-8211
なんば校 TEL.06-6648-5511
天王寺校 TEL.06-6771-4311
堺校 TEL.072-222-9311
神戸校 TEL.078-241-1711
姫路校 TEL.079-224-1411
奈良校 TEL.0742-30-1511
和歌山校 TEL.073-471-2711
岡山校 TEL.086-235-5901
倉敷校 TEL.086-430-4711
福山校 TEL.084-991-3811
広島校 TEL.082-542-3811
鳥取校 TEL.0857-36-9511
米子校 TEL.0859-37-3611
松江校 TEL.0852-59-5411
山口校 TEL.083-974-4011
高松校 TEL.087-811-2011
徳島校 TEL.088-657-7361
松山校 TEL.089-947-2611
高知校 TEL.088-804-0711
天神校 TEL.092-716-2081
小倉校 TEL.093-522-7511
久留米校 TEL.0942-36-7141
佐賀校 TEL.0952-27-9861
長崎校 TEL.095-816-3611
大分校 TEL.097-540-6281
熊本校 TEL.096-212-6811
鹿児島校 TEL.099-239-5711
沖縄校 TEL.098-866-8311

OPEN予定 松本校

株式会社 総合資格
(一社)日本経済団体連合会会員
(一社)日本建築学会会員
(一社)全国産業人能力開発団体連合会会員
監理技術者講習実施機関 登録番号7
宅建登録講習機関 登録番号 第009号
第一種電気工事士定期講習 第5号

株式会社 総合資格学院法定講習センター
国土交通大臣登録講習機関
●一級建築士定期講習 登録番号 第5号
●二級建築士定期講習 登録番号 第4号
●管理建築士講習 登録番号 第2号
給湯業者大臣指定講習機関
●第一種電気工事士定期講習 第4号

※当学院各校一覧は、平成27年12月現在のものです。最新情報は当学院HPをご覧ください。 H27.12

次号予告

特集

ドイツ建築探訪！

「ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉」
「ブルーノ・タウト再考」

2017年3月31日発行予定

NICHE 編集部
鈴木敏彦（編集長）、大塚篤、大場光博、香川浩、楠昭、澤崎宏、柴田卓次、新海俊一、高木雅行、谷口宗彦、土屋和男、中島智章、西川豊宏、濱田昭夫、平井充、船越康弘、類洲環

工学院大学建築学部同窓会誌
NICHE2016 vol.39 ダイジェスト版
発行日　2016 年 3 月 31 日
発行　工学院大学建築学部同窓会 会長 鈴木敏彦
所在地　〒163-8677
東京都新宿区西新宿 1 -24- 2
電話　03-3342-1211（代）

編集・制作：株式会社 ATELIER OPA
印刷製本：研精堂印刷株式会社

建築学部同窓会年会費

郵便振込	￥4,000-
VISAカード引き落とし	￥3,000-

NICHE広告出稿のご案内

1．掲載
工学院大学建築学部同窓会誌
NICHE2017 vol.40ダイジェスト

2．発行日、発行部数
2017年３月31日　20,000部

3．広告掲載料

A . 表紙裏	1 P	￥170,000-
B . 表紙裏の対向	1 P	￥150,000-
C . 裏表紙の内側	1 P	￥150,000-
D . 中面	1 P	￥100,000-

※消費税を別途申し受けます。

4．申込締切
2016年10月31日

5．サイズ
天地270mm×左右210mm

6．広告データ入稿締切
2016年12月15日

7．お申込・お問い合せ先
工学院大学建築学部
鈴木研究室　鈴木敏彦
〒163-8677　東京都新宿区西新宿 1 -24- 2
e-mail：ad@niche-alumni.com
電話：03-3342-1211（代）
※申込書が必要な方はご連絡ください。

BACK NUMBER

アマゾンからお買い求めいただけます。

NICHE mook 01
特集　世界に羽ばたけ！
イギリスハイブリット留学2013
ミラノ工科大学国際交流2011 - 2013
2014年３月31日第１刷発行
214ページ永久保存版
特集130ページ、日英バイリンガル
ISBN 978-4-907469-00-9
定価：本体1,200円＋税 にて発売中

NICHE mook 02
特集　台湾建築探訪！
台湾のフジモリ建築
知られざる梅澤捨次郎の仕事
2015年３月31日第１刷発行
248ページ永久保存版
特集160ページ、日台バイリンガル
ISBN 978-4-907469-02-3
定価：本体1,800円＋税 にて発売中

表カバー写真：中島智章

名称：ワイド・アングル・ローライフレックス（Wide Angle Rolleiflex、通称ワイドローライ）
ビューイング・レンズ：ハイドスマート（Heidosmat）55mm f4
テイキング・レンズ：カール・ツァイス・ディスタゴン（Carl Zeiss Distagon）55mm f4
解説：二眼レフカメラ（Twin Lenses Reflex、TLR）とは、上のビューイング・レンズから見えるファインダー像によってピントと構図を操作し、下のテイキング・レンズからの像をフイルム上に結ぶという仕組みのカメラである。一眼レフカメラと比較した場合の短所はファインダー像と実際に写る像に差（パララックス）があること、長所はビューイング・レンズの後ろにあるミラーが不動であるため、シャッターの音と衝撃が小さいことだろう。ローライ社のローライフレックス・シリーズはその代表格である。二眼レフには、幅 60mm の 120 フイルム（いわゆるブローニー）を用いた、フイルム・フォーマット 60mm×60mm の機種が多く、焦点距離 75mm や 80mm の「標準レンズ」を備えるのが通常だが、1961 年に登場した本機は広角レンズを備え、建築撮影にも威力を発揮する。もっとも、この場合、本機と三脚雲台の間に水準器を挿入しなければならない。

大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する建築デザイン誌

NICHE（ニッチ）

「ニッチ」とは、イタリア語では「ニッキア」（nicchia）といい、フランス語の「ニーシュ」（niche）を経て、同じ綴りのまま英語の「ニッチ」となった。日本語では「壁龕（へきがん）」という。古典主義建築のファサードや壁面に施された窪みを意味する。ラテン語の「巣」を意味する「ニドゥス」（nidus）に由来するという説や、半球形となっている頂部が貝殻模様で装飾される場合もあることから貝殻を意味するイタリア語「ニッキオ」（nicchio）を結びつける説もある。この空間には古代ギリシア・ローマ神話の神々やニンフ、ローマ皇帝などの彫像が置かれた。転じて、教会堂内における聖体（キリストの血と肉であるワインとパン）を置く同様の空間や、近世の宮殿や貴族住宅における寝台を収めるアルコーヴを指すようになった。『NICHE』という書名には、大学の知的資源が溢れ出る窪みでありたいという願いを込めている。